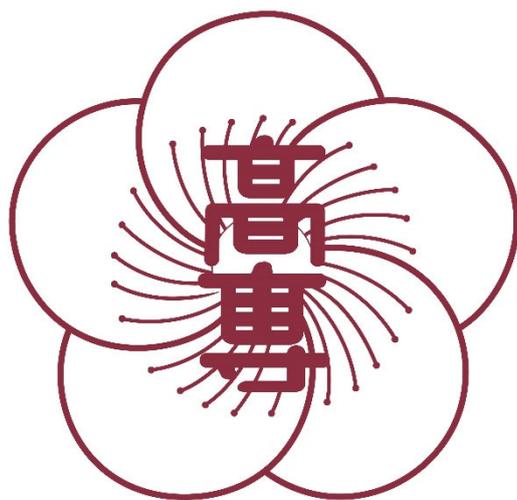


令和2年度 年次報告書

—委員会等による活動報告及び点検評価結果—



茨城工業高等専門学校

目 次

1. 学生の受入（入学試験委員会）	1
2. 教育内容等（教務委員会）	10
3. 教育内容等（専攻科委員会）	15
4. 学生支援（学生委員会）	18
5. 寮生支援（寮務委員会）	21
6. 広報活動（広報委員会）	25
7. 学生健康支援（学生健康センター）	28
8. 図書館運営（学術総合情報センター）	31
9. 情報化推進（学術総合情報センター）	39
10. 国際化推進（グローバル教育センター）	41
11. 男女共同参画推進（男女共同参画推進センター）	46
12. 地域連携・研究活動	
（副校長（地域連携・評価）、地域共同テクノセンター）	48
13. 教育組織（教員任用審査会）	55
14. 教育支援組織（事務部）	58
15. 教育支援組織（技術教育支援センター）	61
16. 予算及び施設・整備（総務委員会）	67
17. 安全衛生管理（安全衛生委員会）	69
18. 自己点検・評価（自己点検・評価委員会）	72

1. 学生の受入（入学試験委員会）

（1）取組実績

①入試広報活動

1) 令和2年度地区別学校説明会の実施

例年7月下旬～8月上旬の土・日曜日に県内8地区会場（本校、日立、常陸大宮、笠間、土浦、つくば、取手、鹿嶋）で学校説明会を実施し、学校概要、卒業生の進路状況、入試制度等について説明を行っていたが、令和2年度は、新型コロナウイルス感染防止のため中止となった。

学校説明会配布資料（学校案内「What's 茨城高専?」、学校説明会資料、受験のしおり、学寮案内）を中学校へ送付するとともに、PDF版を本校ホームページの学校説明会サイトに掲載し、学校説明動画を茨城高専公式YouTubeチャンネルで配信した。

2) 中学校進路指導担当教員対象学校説明会の実施

回	日 時	場 所	参加人数	合計
第1回	9月9日（水）14:00～16:00	本校大会議室	47人	70人
第2回	10月22日（木）14:00～16:00	本校大会議室	23人	

*開催案内通知は、茨城県内中学校（222校）に送付し、出欠の回答を依頼した。

*学校概要、卒業生の進路状況、令和3年度入学者募集要項及び出願手続等について説明を行った。また、新型コロナウイルス感染拡大の影響による令和3年度入学者選抜における配慮事項について説明した。

3) 中学校主催学校説明会

県内中学校からの依頼により担当者を派遣し、高校進路説明会等において本校の説明を行い、ひたちなか市内の中学校では模擬授業も行った。

令和2年度は9月～11月までに27件の依頼があり、中学生：1,019人、保護者：340人、教師：97人の参加があった。

4) 中学校訪問

例年9月上旬～中旬の期間に全教員が分担して県内中学校を訪問し、学校概要、卒業生の進路状況、入学者募集及び出願手続等について説明を行い、また、中学校の現状について情報収集し、相互理解の向上に努めていたが、令和2年度は、中学校教員対象説明会の開催案内に併せて中学校への説明派遣希望を伺い、申込のあった13校へ9月～11月に教務関係教員を派遣し、3学年担任会などで約80人に説明を行った。

5) 一日体験入学・学校説明会

9月26日(土)に本校で、学校説明会(第1体育館)、各系での模擬授業・模擬実験、校内見学ツアー、学寮案内、入試制度説明、進路相談、学生Café、クラブ活動紹介など、毎年実施している一日体験入学・学校説明会の行事を予定したが、令和2年度は、新型コロナウイルス感染防止のため中止となった。
学校説明動画、各系別の専攻紹介10分動画、受験生へのメッセージ動画などを作成して、茨城高専公式YouTubeチャンネルで配信した

6) 学校見学希望者への対応

中学生及び保護者からの個別依頼に対応し、校内施設見学案内、学校概要説明、進路相談及び受験案内等を行った。

令和2年度は、10月～12月に中学校20校から生徒・保護者54人の見学者があった。

7) 入試広報資料の作成

種類	名称	部数	備考
パンフレット	学校案内「What's 茨城高専?」	6,500部	ホームページ公開
パンフレット	学校説明会資料	3,500部	ホームページ公開
リーフレット	受験のしおり	3,500枚	ホームページ公開
リーフレット	茨城高専の学寮案内	3,500枚	ホームページ公開
リーフレット	入学・入試案内	7,000枚	
ポスター	学校PRポスター	350枚	
映像	学校紹介動画DVD	2,000枚	

* 入試広報資料は、入試広報活動全般において中学生、保護者、中学校教員及び学習塾関係者等へ配布した。

* 入試広報資料及び入学者募集要項は、茨城県内中学校：222校、栃木県・千葉県内中学校(茨城県隣接地域)：98校に送付した。

8) 募集要項の作成

- ・ 令和3年度本科入学者募集要項 … 2,900部印刷、県内中学校、県外中学校、学習塾等へ送付
- ・ 令和3年度第3学年編入学者(外国人対象)募集要項 … 高専機構で全国高専作成
- ・ 令和3年度第4学年編入学者募集要項 … 300部印刷、高等学校へ送付
- ・ 令和4年度専攻科入学者募集要項 … 300部印刷、全国高専へ送付

②入学試験委員会の開催

1)第1回

日時：令和2年5月14日（木）16：10～16：39（場所：大会議室）

- 議題：1. 令和3年度専攻科入学者推薦選抜試験合格者判定について
2. 令和3年度第4学年編入学試験業務日程（案）について
3. 令和3年度第4学年編入学生募集要項（案）について
4. 令和2年度本科入学試験状況及び新入生アンケート結果について
5. 令和3年度入学者選抜試験日程（案）について
6. その他

2) 臨時（メール審議）

発議：令和2年6月3日（水）⇒4日（木）原案改訂の再審議

決議：令和2年6月5日（金）

審議事項：令和3年度専攻科学力入試当日の体調不良学生の扱いについて

3) 第2回

日時：令和2年6月16日（火）16：10～17：13（場所：大会議室）

- 議題：1. 令和3年度専攻科入学者学力選抜試験合格者判定について
2. 専攻科学生選抜基準の改正（案）について
3. 令和3年度本科入学者選抜の実施について
4. その他

4)第3回

日時：令和2年9月4日（金）11：00～11：44（場所：大会議室）

- 議題：1. 令和3年度第4学年編入学生選抜試験合格者判定について
2. 専攻科学生選抜基準の改正（案）について
3. 令和3年度本科入学者選抜の実施について
4. 令和3年度入学者募集要項（案）について
5. その他

5) 第4回

日時：令和2年9月25日（金）15：30～15：47（場所：大会議室）

- 議題：1. タイ政府奨学金留学生・2021年度入学者選抜に係る合否判定について
2. 令和3年度第3学年編入学外国人留学生受入可能人数について
3. その他

6)第5回

日時：令和2年10月27日（火）15：10～15：31（場所：大会議室）

- 議題：1. 令和3年度入学者推薦選抜試験業務日程表（案）について
2. 令和3年度入学者推薦選抜試験業務担当者選出人員（案）について
3. 令和3年度入学者選抜学力検査、帰国子女特別選抜及び外国人特別選抜

試験業務日程表（案）について

4. 帰国子女特別選抜及び外国人特別選抜における入試制度の変更（案）について
5. その他

7)第6回

日時：令和2年11月10日（火）16：10～16：18（場所：大会議室）

- 議題：1. KOSEN-KMITL 学生の2021年度高専本科3年生編入学試験に係る合否判定について
2. その他

8)第7回

日時：令和3年1月12日（火）16：10～16：35（場所：大会議室）

- 議題：1. 令和4年度入学者選抜試験日程について
2. 令和4年度専攻科入学者推薦選抜試験業務日程表について
 3. 令和4年度専攻科入学者学力選抜・社会人特別選抜試験業務日程表について
 4. 令和3年度入学者推薦選抜試験の実施について
 5. その他

9)第8回

日時：令和3年1月21日（木）11：00～11：17（場所：大会議室）

- 議題：1. 令和3年度入学者推薦選抜試験合格者判定について
2. その他

10)第9回

日時：令和3年2月10日（水）16：10～16：45（場所：大会議室）

- 議題：1. 令和4年度専攻科学生募集要項（案）について
2. 令和3年度入学者選抜学力検査の実施について
 3. その他

11)第10回

日時：令和3年2月24日（水）11：00～11：45（場所：大会議室）

- 議題：1. 令和3年度入学者選抜試験合格者の判定について
2. その他

③入学試験の実施

1) 令和3年度本科入学者選抜試験

*新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を受け、中学校等で臨時休業が実施され、さらに同感染症の感染拡大防止が社会から求められていることから、令和3年度入学者選抜において、「新型コロナウイルス等の感染症に対応した試験実施のガイドライン（高専機構学務課）」に基づき以下の配慮事項を実施した。

- ① 新型コロナウイルス等による感染症に罹患し、又はその疑いがあり、本試験を受験することができなかった受験生を対象に「追試験」を実施することとした。

② 学力検査及び推薦選抜における適性検査や口頭試問は、中学校第3学年後期で学習する内容を出題範囲から除外した。

③ 学力検査において遠方に居住する受験生の交通機関移動への不安解消のため、近隣高専で受験できる「最寄り地受験」を導入実施した。

- ・ 推薦選抜願書受付：令和3年1月6日（水）～1月8日（金）
- ・ 推薦選抜適性検査、面接試験：令和3年1月19日（火）[予備日20日（水）]
- ・ 推薦選抜合格内定者発表：令和3年1月25日（月）10：00 屋外掲示板（午後HP掲載）
- ・ 推薦選抜追試験：令和3年2月3日（水）… 合格内定発表：2月8日（月）
- ・ 入学者選抜学力検査、帰国子女特別選抜、外国人特別選抜
願書受付：令和3年1月26日（火）～1月29日（金）
- ・ 推薦選抜合格内定者入学確約書提出期限：令和3年2月8日（月）
- ・ 入学者選抜学力検査：令和3年2月21日（日）（再試験日：28日（日））
（本校検査場のみで実施、帰国子女特別選抜に出願者3人）
- ・ 合格者発表：令和3年2月26日（金）10：00 屋外掲示板（午後HP掲載）
- ・ 学力選抜合格者入学確約書提出期限：令和3年3月5日（金）
- ・ 学力検査追試験：令和3年3月7日（日）… 合格発表：3月10日（水）
- * 入学手続説明会：令和3年3月3日（水）9：30～12：00 本校8号館
（新型コロナウイルス感染防止のため、分散受付で入学手続関係書類の配付、教材購入、体操服注文、入寮希望者面接を行った。）

○ 令和3年度本科入学試験状況

学科	入試全体					推薦選抜			学力選抜		
	募集人員	出願者数	受験者数	合格者数	出願倍率	出願者数	受験者数	合格者数	出願者数	受験者数	合格者数
国際創造工学科	200	296 (62)	288 (58)	204 (44)	1.5	101 (32)	101 (32)	50 (15)	242 (45)	232 (42)	153 (29)

※下段（ ）は女子で内数

学科	帰国子女特別選抜			外国人特別選抜			入学者数	タイ留学生入学者数	入学者数合計
	出願者数	受験者数	合格者数	出願者数	受験者数	合格者数			
国際創造工学科	3 (2)	2 (1)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	204 (44)	2 (0)	206 (44)

※下段（ ）は女子で内数

2) 令和3年度第3学年編入学試験（外国人対象）

国立高専機構本部統括による外国人（私費留学生）対象の第3学年編入学試験

*本校第3学年編入学試験（外国人対象）合否判定基準に基づき合否を判定

- ・令和3年度編入学募集においては、本校志願者がいなかった。

3) 令和3年度第4学年編入学試験

- ・編入学願書受付：令和2年8月4日（火）～8月6日（木）
- ・編入学試験：令和2年9月1日（火）
- ・合格者発表：令和2年9月8日（火）13：00 屋外掲示板、本校HP掲載
- ・入学確約書提出期限：令和2年11月27日（金）
- ・確約書提出者に対する説明会：令和2年12月8日（火）15：30～
- ・入学手続説明会：令和3年3月4日（木）9：00～ 10号館A2ゼミ室

○ 令和3年度第4学年編入学試験状況

募集専攻系	出願者数（高校：科）	受験者数	合格者数	入学者数
機械・制御系	3（数理1、普通2）	2	1	1
電気・電子系	2（工業1、普通1）	2	1	1
情報系	2（情報2）	2	1	1
化学・生物・環境系	0	0	0	0
合計	7	6	3	3

4) 令和3年度専攻科入学者選抜試験

- ・推薦選抜願書受付：令和2年4月27日（月）～4月28日（火）
（新型コロナウイルス感染拡大防止のため願書郵送受付とし5月7日まで延長した。）
- ・推薦選抜面接試験：令和2年5月13日（水） *本校以外からの受験者なし
（本校からの受験者については各学科からの推薦に基づき総合的に合否判定）
- ・推薦選抜合格者発表：令和2年5月19日（火）12：30 本校HP掲載のみ
- ・推薦選抜合格者入学確約書提出期限：令和2年6月5日（金）17時
- ・学力選抜、社会人特別選抜願書受付：令和2年6月1日（月）～6月3日（水）
- ・入学者選抜学力検査：令和2年6月13日（土） 数学、専門科目
（社会人特別選抜は、出願者なし。）
- ・合格者発表：令和2年6月19日（金）12：30 本校HP掲載のみ
- ・学力選抜合格者入学確約書提出期限：令和2年10月30日（金）

○ 令和3年度専攻科入学試験状況

産業技術システムデザイン工学専攻（募集定員：20人）

専攻科コース	推薦選抜		学力選抜			入学者数
	出願者数	合格者数	出願者数	受験者数	合格者数	
機械工学コース	0	0	0	0	0	0
電気電子工コース	10 (S4, E6)	10	14 (S4, E10)	13	7	12
情報工学コース	5 (D5)	5	9 (D9)	9	3	5
応用化学コース	3 (C3)	3	2 (C2)	2	2	3
合計	18	18	25	24	12	20

* () は本校学科別出願者内数 ※他高専等からの出願者なし

④外国人留学生の受入

学年	学科（系）	性	国籍	身分	備考
1年	国際創造工学科 （機械・制御系）	男	タイ	政府派遣	第4期タイ政府奨学金 留学生受入事業
	国際創造工学科 （化学・生物・環境系）	女	タイ	政府派遣	
3年	国際創造工学科 （機械・制御系）	男	マレーシア	政府派遣	
	国際創造工学科 （機械・制御系）	女	マレーシア	政府派遣	
	国際創造工学科 （電気・電子系）	男	ラオス	国費	
	国際創造工学科 （情報系）	男	カンボジア	国費	
	国際創造工学科 （情報系）	男	モンゴル	政府派遣	

(2) 自己評価（改善含む）及び課題

- ① 令和2年度第4学年編入学試験を台風の影響のため午後から試験を開始したことから、令和3年度編入学試験から試験日を火曜日とし、予備日を翌日に設定して出願者に事前に周知した。令和3年度出願者7人中5人が県外で遠方居住者であったこともあり、次年度以降も継続して同様に試験日程を設定する。
- ② 第4学年編入学試験における英語の外部試験導入について、普通高校は外部試験を積極的に受験しており、工業高校も英検等を受けるよう指導していることから、令和3年度編入学試験から外部試験を導入したところ出願者7人中5人が外部試験出願した。しばらく併用したのち、将来的には英語試験なしで外部試験のみに移行していく。
- ③ 令和3年度第4学年編入学試験における数学の試験時間を90分から60分に変更し実施

した。60分で実施しても判定に影響はなかった。今年度は面接開始時間を30分繰り上げたが、次年度は昼食休憩時間を増やし数学開始時間を10分繰り下げて実施する。

- ④ 令和3年度に国際創造工学科の学生が5年生となるため、令和4年度専攻科学生募集に向けて専攻科学生選抜基準を改正し、主専攻系からの推薦に関する基準や募集定員に対する学力選抜合格者数上限の設定等について整理した。また、学力選抜合格者の入学確約書提出期限を9月末までとし、入学予定者が募集定員に達しない場合の対応を早めることとした。
- ⑤ 国際創造工学科の1学科に改組して5年目の入試となったが、過去3年間の学力検査による選抜合格者の5教科合計(600点満点)の最高点、最低点及び平均点は次のとおりであり、問題の難易度と入試倍率が影響していると思われる。

	最高点	最低点	平均点	志願倍率
平成31年度	513	350	408	1.8
令和2年度	536	380	428	2.0
令和3年度	537	352	426	1.5
3年間の平均	529	361	421	1.8

- ⑥ 帰国子女特別選抜及び外国人特別選抜について、通常学力入試制度の合格者最低ラインの学力検査の点数であるにも関わらず、特例適用の優先権を取得できることの不公平感を解消するため、令和5年度入学者募集から通常学力入試制度を適用することとした。
- ⑦ 今後の入学試験委員会における課題
 数学、理科の点数が低い合格者及び推薦受験者で学力選抜も不合格となった者など、推薦で調査書評定点が118以上でも、必ずしも学力が高い受験生が志願していない。調査書の評定点数をどの程度加味するか、調査書評定の合格判定配点基準について検討していく。

(3) 今後の展開

- ① アドミッション・ポリシーの入学者選抜における具現化に関して、優れた入学者を早期に確保するため、新たな評価方法の導入など入試制度改革の検討が必要である。
- ② 15歳人口の減少及び公立中高一貫校の増加による入試倍率の低下を防ぎ、本校志願者を確保するため、本校ホームページでの情報発信を充実させ、コロナ禍で有効な入試広報活動の取組が必要である。

- ③ 高専機構の入学試験制度改革（①思考力・判断力・表現力をより重視した統一学力検査問題、②最寄り地受験の全面的な実施と追試験の恒常化、③複数校志望受験制度の拡充、④調査書の改善と統一様式への移行、⑤入学者選抜学力検査の再検査用予備問題の審査・作成等、⑥WEB出願の導入、⑦推薦選抜の現状・課題・改善）へ対応して入学志願者確保に資する対策を講じる。

2. 教育内容等（教務委員会）

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、下記とおり通常対面授業と遠隔授業を実施した。

- 4月3日（金）：入学式
- 4月6日（月）～4月20日（月）：休校
- 4月21日（火）～5月29日（金）：遠隔授業
- 6月1日（月）：最初の登校日
- 6月8日（月）～9月4日（金）：一部登校再開、実験・実習以外は遠隔授業
- ※6月8日（月）～8月28日（金）：分散登校による実験・実習の集中実施
- 9月7日（月）～9月11日（金）：通常対面授業
- 9月14日（月）～9月25日（金）：前期期末試験（対面）
- 10月1日（木）～1月8日（金）：通常対面授業
- 1月12日（火）～15日（金）：遠隔授業及び分散登校（実験・実習のみ）
- 1月18日（月）～1月25日（月）：通常対面授業
- 1月26日（火）～2月2日（火）：後期期末試験（対面）
- 2月3日（水）～2月10日（水）：通常対面授業
- 3月4日（木）：登校日
- 3月12日（金）：終業式
- 3月13日（土）：卒業式・修了式

（1）取組実績

学生の教科履修及び学籍等については、教務委員会において立案の上、次の活動を行った。

①キャリア教育

国際創造工学基礎（1年）にキャリア教育を導入した。また、共有ドライブを活用して、就職情報を学生へ情報共有した。

②ボランティア活動の支援

ボランティア活動については「社会貢献」として単位化しており、5人の学生が「社会貢献」の単位を取得した。

③モデルコアカリキュラムによる教育の質保証の取組推進

CBTを12月10日（本科1年生）、12月17日（本科2年生、3年生）に実施した。

④インターンシップへの参加推進

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、インターンシップの校内説明会を開催せず、Google ドライブに関係書類を掲載して、本科第4学年、本科第5学年及び専攻科学生へメールにてインターンシップに係る連絡をした。なお、インターンシップ報告会は、日程調整の困難さや新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止した。

令和2年度のインターンシップ参加者は本科27名、専攻科33名であった。

⑤セキュリティを含む情報教育

「情報リテラシー」の授業において、セキュリティを含む情報教育を行った。

⑥Webによる履修登録

選択科目の履修申請をMicrosoft FormsによるWeb登録方式へ変更し、登録作業の効率化を図った。

⑦主専攻・副専攻の決定

国際創造工学科3期生の主専攻・副専攻配属を本人の希望と成績順位により決定し、以下のとおり配属された。

<主専攻>	機械・制御系	79名	(第1希望51名 第2希望20名)
	電気・電子系	40名	(第1希望30名 第2希望8名)
	情報系	42名	(第1希望41名 第2希望1名)
	化学・生物・環境系	40名	(第1希望40名)
<副専攻>	機械・制御系	45名	
	電気・電子系	46名	
	情報系	46名	
	化学・生物・環境系	44名	
	グローバル系	20名	

⑧規則等に関すること

実態に合った内容に修正するため、以下の規則の改正及び申合せの改正を行った。

- ・ 茨城工業高等専門学校学則及び学生準則の一部改正
- ・ 茨城工業高等専門学校留学規則の一部改正
- ・ 特別学修の単位の認定及び茨城工業高等専門学校で修得すべき科目とみなす単位の認定に関する規則の一部改正
- ・ 茨城工業高等専門学校科目等履修生規則の一部改正について
- ・ 指定校選抜における学校長推薦の取り扱いについて
- ・ 転学等退学学生に対する成績の取り扱いについて

⑨令和2年度教務委員会

令和2年度は以下のとおり委員会を3回、メール審議を22回開催した。

回数	開催日(期日)	議題
第1回	令和2年4月7日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 茨城工業高等専門学校学則の一部改正について 2. 特別学修の単位の認定及び茨城工業高等専門学校で修得すべき科目とみなす単位の認定に関する規則の一部改正について 3. 茨城工業高等専門学校留学規則の一部改正について 4. 社会貢献時間数認定および単位認定について 5. 知識・技能審査による単位認定について 6. 他大学等履修申請について 7. 転学願について 8. 遠隔授業に関するルールについて 9. 遠隔授業に伴う学生のネット環境調査について 自宅にネット環境があるか、携帯での視聴について、スマホが使えるか(通信制限の有無) ネット環境が整っていない学生に対して登校による受講は可能な学生は几人か。 10. 新型コロナウイルス感染拡大による休校に伴う遠隔授業実施予定についての調査 各系・部で調査し、報告 (非常勤については系長、部長、科目主任から連絡)
メール第1回	令和2年7月1日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 3年一般選択科目「実践英語」の次年度持越しについて
メール第2回	令和2年7月21日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 他大学等での履修科目の単位認定について(放送大学) 2. 退学について
メール第3回	令和2年8月3日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 転学について
メール第4回	令和2年8月6日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 茨城工業高等専門学校科目等履修生規則の一部改正について
メール第5回	令和2年8月18日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 他大学等での履修科目の単位認定について(九州工業大学eラーニング)
メール第6回	令和2年8月24日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 知識技能審査単位認定について
メール第7回	令和2年8月31日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 知識技能審査単位認定について 2. 他大学等での履修科目の単位認定について(長岡技科大)

メール 第8回	令和2年9月4日	1. 休学について 2. 退学について
メール 第9回	令和2年9月18日	1. 休学について 2. 知識技能審査による単位認定について 3. 研究生期間延長について 4. 科目等履修生の審査結果について
メール 第10回	令和2年9月23日	1. 休学について
メール 第11回	令和2年9月24日	1. 休学について
第2回	令和2年10月8日	1. 知識・技能審査単位認定について 2. 再試験受験基準の特例的な臨時緩和対応について 3. 一般科目と専門科目担当者の懇談会 4. 帰国子女および外国人特別選抜の変更を入試委員会で議論することについて 5. 留学生の仮進級について 6. 休学について 7. 転学について 8. 他大学等履修申請について 9. その他の事項2件
メール 第12回	令和2年11月4日	1. 休学について
メール 第13回	令和2年12月2日	1. 休学について 2. 退学について
メール 第14回	令和2年12月21日	1. 病欠等による欠席オーバーの取扱いに関する申合せ適用依頼について 2. 転学について
メール 第15回	令和3年1月25日	1. 退学について 2. 転学について 3. 知識・技能審査単位認定について
メール 第16回	令和3年1月29日	1. 社会貢献活動実施届（事前）について
メール 第17回	令和3年2月3日	1. 休学について
メール 第18回	令和3年2月10日	1. インターンシップ単位認定について 2. 社会貢献活動（事前）について

		3. 知識・技能審査単位認定について
メール 第19回	令和3年2月19日	1. 社会貢献活動単位認定について 2. 社会貢献活動実施届（事前）について
メール 第20回	令和3年2月24日	1. インターンシップの単位認定について 2. 社会貢献実施報告書について 3. 他大学等での履修単位について 4. 学則及び学生準則の改正（案）について
メール 第21回	令和3年3月3日	1. 社会貢献活動（事前）について 2. 他大学等での履修単位について
メール 第22回	令和3年3月4日	1. 卒業追加認定について
第3回	令和3年3月18日	1. 社会貢献活実施報告書について及び卒業認定について 2. 指定校選抜における学校長推薦の取り扱いについて 3. 転学等退学学生に対する成績の取り扱いについて 4. 遠隔授業科目について 5. 科目等履修生の単位認定について 6. 令和3年度茨城工業高等専門学校研究生について 7. 休学について 8. 退学について 9. 復学について

(2) 自己評価（改善含む）及び課題

- ① 令和2年度も選択科目の履修申請を Microsoft Forms による Web 登録方式として登録作業の効率化を図った。
- ② 主専攻配属については、I系とC系は、ほとんどの学生が第1希望の配属となった。M系は第1希望の学生と第2希望の学生を合わせて9割、E系は第1希望と第2希望の学生を合わせて9割5分であった。

(3) 今後の展開

- ① 高専機構全体で進めていた高専学生情報統合システムの導入を高専機構本部が断念したことにより、平成14年度に導入してから現在まで使用している教務システムの更新について検討が必要である。

3. 教育内容等（専攻科委員会）

（1）取組実績

専攻科の教科履修及び学籍等については、専攻科委員会において立案の上、次の活動を行った。

①専攻科入学者の確保

本科の学生が専攻科に魅力を感じて進路先として選択してくれるように、学協会で受賞した専攻科学生の記事及び専攻科最優秀研究発表賞（旧：専攻科長賞）の受賞者の紹介を本校専攻科 HP へ掲載した。

②カリキュラムの改定

平成 29 年度に改組が行われた本科生が令和 4 年度に専攻科へ入学するのに合わせて行うカリキュラムの改定は、予定どおり準備が進んでいる。学位申請時に必要となる科目表について、本科科目の、専門科目、関連科目、専攻科科目等の科目区分を整理した。それを踏まえ、専攻科の全コース共通科目及び各コースでの開講科目の改正案を作成した。

③地域社会及び産業界との連携

特別実験（プロジェクト実験）は「小学校のプログラミング教育のためのコンテンツ開発」をテーマとして、完全オンラインで実施した。毎週、グループごとに異なる教材についてコンテンツを開発し、その成果の発表を繰り返した。8月12日（水）に実施した、ひたちなか市教育委員会との連携事業である「プログラミング教育研修会」において、ひたちなか市の小学校教諭及び教育委員会の関係者に成果を披露した。

④専攻科特別実験への学生共同作業プログラムのルーブリック評価及び特別研究の充実・成果発表の英語化

専攻科特別実験への学生共同作業プログラムのルーブリック評価及び特別研究の充実・成果発表の英語化には継続して取り組んでいる。

⑤特例適用専攻科に係る変更の届出

令和 3 年度入学生から適用する学修総まとめ科目の指導教員 2 名の追加と 2 名の変更の届出を行い、指導教員 2 名の追加、2 名の変更が認められた。

⑥特例適用による学位申請

特例適用専攻科として、学位規則第 6 条第 1 項に規定する学士の学位の授与の特例に係る学位授与申請を独立行政法人大学改革支援・学位授与機構に行い、専攻科 2 年生全員（30 名）が学位を取得した。

⑦令和2年度専攻科委員会

令和2年度は以下のとおり委員会を2回、メール審議を3回開催した。

回数	開催日（期日）	議題
メール 第1回	令和2年4月9日	1. 休校期間中における本校での特別研究Ⅱの実施について
第1回	令和2年8月26日	1. 専攻科カリキュラム改定準備について 2. 専攻科の合格基準について 3. 学修総まとめ科目履修計画書のチェックについて
メール 第2回	令和2年12月2日	1. 専攻科カリキュラム改定に関する、学位授与機構への連絡について
メール 第3回	令和3年2月9日	1. インターンシップの単位認定について
第2回	令和3年2月12日	1. 令和2年度インターンシップ成績認定について 2. 専攻科2年生単位修得認定について 3. 令和4年度カリキュラム改定について 4. その他

(2) 自己評価（改善含む）及び課題

- ① 特例適用による学位申請については、今年度で3回目の対応であり、円滑に手続きを進め、専攻科2年生全員が学位を取得することができた。学生の申請不備はまだ一定数ある状況なので、来年度申請する学生に対し、申請時に間違いやすい点を周知する。
- ② 本科の学生が専攻科に魅力を感じ進路先として選択してくれるように、専攻科の活動の様子をホームページで積極的に紹介するようにした。今後も、専攻科の志願者が増えるよう本科の学生に対して魅力を周知していく。
- ③ 平成29年度に改組が行われた本科生が専攻科へ入学するのに合わせて行うカリキュラムの改定は、専攻科の全コース共通科目及び各コースの開講科目の改正案を作成した。令和3年9月末までに学位授与機構へ特例適用専攻科の変更の届出を提出する。

(3) 今後の展開

- ① 本科改組後の学生が専攻科に入学するのに合わせ、カリキュラムの改訂を行うため、特例適用専攻科における科目表の変更申請を令和3年9月末までに行う。事前に大学改革支援・学位授与機構に申請手続について相談しており、特例適用専攻科の変更の届出及び学則等変更届出書を提出することで対応する旨の回答を得ている。
- ② 特別研究の充実・成果発表の英語化については、今後も、引き続き取り組んでいく。

- ③ 認定専攻科及び特例適用専攻科の教育の実施状況等の審査（レビュー）が今後予定されているため、準備を進めていく。
- ④ 令和3年度の学生実験で、地元企業から出していただいた課題について学生に検討させる取り組みを行う。その取り組みの中で、アントレプレナーシップ講演会として、さまざまな分野の方々から講演いただくことを計画している。

4. 学生支援（学生委員会）

（1）取組実績

①部・同好会活動に関すること

新型コロナウイルス感染症対策に重点的に取り組み、より安全な環境で部活動ができるように支援を行った。

以下今年度の体育大会、コンテスト等での実績。

■運動部

- ・ 関東信越地区高等専門学校体育大会：中止
- ・ 全国高等専門学校体育大会：中止
- ・ 1回全国高等専門学校水泳競技通信記録会 100m平泳ぎ：優勝（北）

■文化部

- ・ Civictech Challenge Cup U-22：大賞（弓削）
- ・ サイエンスキャッスル 2020 ASEAN大会：オンライン発表（カモンパット）
- ・ サイエンスキャッスル 2020 関東大会：優秀賞（カモンパット）
- ・ Web×IoT メーカーズチャレンジ 2020-21in 茨城：最優秀賞（饗庭、武井、堤、弓削）
- ・ 第20回日本情報オリンピック：本選Cランク（成田）
- ・ 第18回全国高等学校パソコンコンクール：本選出場（富澤、佐藤、成田、三井田、伊藤）

②学費に関すること

奨学金、授業料免除および就学支援金等に関する情報提供を校内掲示板、HP掲載、保護者等へ文書通知等により行った。

また、本校HPにお問い合わせフォームを追加した。

奨学金一覧（○）は受給実績あり

- ・ 日本学生支援機構 給付型（○）
- ・ 日本学生支援機構 貸与型（○）
- ・ 若築建設奨学金（○）
- ・ 岸川光男記念奨学基金（○）
- ・ オリエンタルモーター奨学財団奨学金（○）
- ・ 古岡奨学会奨学金（○）
- ・ 中川育英会奨学金（○）
- ・ アフラック小児がん経験者・がん遺児奨学生（○）

- ・朝鮮奨学会（○）
- ・天野工業奨学金（○）
- ・ウシオ財団奨学金
- ・あしなが育英会奨学金
- ・交通遺児育英会奨学金
- ・関育英奨学会
- ・川村育英会
- ・NSG財団修学支援事業
- ・山新育英財団奨学金
- ・茨城県奨学金（○）
- ・ひたちなか市奨学金
- ・水戸市奨学金
- ・日立市奨学金
- ・大洗町奨学金

③学生会活動

- ・令和3年度学生会長選出

④イベント

- ・芸術鑑賞会：中止
- ・校内体育大会：中止
- ・茨香祭：延期（翌年開催）

⑤安全指導

- ・厚生補導関連の講演会：中止
- ・学生主事・主事補により、校門巡回、立哨指導、掲示による周知等を実施。

⑥施設改修

- ・茨友会館食堂に飛沫防止板の設置。
- ・学生課へサーモ体温測定機の設置。

⑦預り金

- ・全国高専英語プレゼンテーションコンテストの大会期間に新規の預り金管理を行った。

⑧懲戒処分を伴う学生の問題行動への対応

- ・該当者無し。

⑨いじめ対策

- ・いじめの取り組み強化に向け、いじめ対策委員会を設置した。

(2) 自己評価（改善含む）及び課題

- ① 新型コロナウイルス感染拡大に伴い、部・同好会の活動を大幅に制限した。活動再開に際しては、各競技団体のガイドラインを踏まえ、感染対策の提出、共同物品の消毒、活動時の体温、体調不良の有無等をチェックするコンディションチェックシートの提出等により管理を徹底した。
- ② 教育の機会の平等という観点から、意欲・能力のある学生が経済的な面で心配することなく、安心して学べるよう、経済的に困窮している世帯の教育費負担の軽減を図る奨学金等の積極的利用を呼びかけた。また、修学支援新制度が開始し、多くの学生の申込みがあった。新型コロナウイルスの影響で経済的支援が必要な学生への奨学金にも対応した。ホームページをリニューアルし、学生・保護者へスムーズに案内出来るようになった。
- ③ 新型コロナウイルス感染拡大に伴い、学生会活動が制限された。会長選挙をオンラインで実施した。
- ④ 芸術鑑賞会及び校内体育大会を中止とした。茨香祭は延期し翌年開催とした。
- ⑤ 厚生補導関連の講演会を中止した。車、自転車の事故防止や感染症予防の意識付けのために立哨、巡回、ポスター掲示等を行った。
- ⑥ 学食での感染リスクを低減させるために、飛沫防止版を設置。学生課へサーモ体温測定器を設置。
- ⑦ 預り金管理を行い、適切な会計処理と円滑な運用を進めた。本年は1つの学内団体が新たに取扱いを開始した。(コンテスト期間終了に合わせて取扱いも終了)。学内団体等で資金を取り扱う際は預り金として手続きを行うよう、引き続き学内周知を行う。
- ⑧ 懲戒処分の学生は該当無しであったが、引き続き学生指導を徹底する。
- ⑨ いじめ対策委員会規則及びいじめ防止等基本計画を策定し、本校として組織的ないじめ対策のルール作りを実施した。

(3) 今後の展開

新型コロナウイルスの感染拡大の影響で年間行事が大幅に変更され、学生生活へも大きな影響を及ぼした。今後はコロナ感染症の感染拡大を踏まえたなかで、どのように工夫をして活動の再開や活性化を図るかが課題となる。

5. 寮生支援（寮務委員会）

（1）取組実績

①寮生数について

年度当初寮生数	184人	入居率 88%
年度途中入寮者	1人	
年度途中退寮者	8人	
年度末寮生数	177人	入居率 84%（卒寮生及び年度末退寮生を含む）

3年生までを基本とした学寮であるが、部屋に空きがある場合は、入寮更新を希望する新4、5年生のうち、自宅からの距離、リーダーシップ、素行、成績を鑑みて順位付けを行い、指導寮生（補助）として入寮更新を認めることにした結果、年度当初時点で前年度より入居率が9%上昇した。

②部分開寮等について

新型コロナウイルス感染症の影響で、4月以降は開寮ができない状況であったが、実験実習のための登校が開始されることに伴い、該当する寮生のみ1週間単位で入寮させる部分開寮を6月7日から実施した。部分開寮の際には、学寮の利用方針を示したうえで保護者から同意書を提出してもらった。部分開寮期間中は入寮者が100名に満たないため食堂業者による食事提供が難しく、寮生の食事は宅配弁当を用意した。

新1年生については、実験実習のための登校がないため、体験入寮という形で3泊4日の寮生活を体験させた。

③二人部屋の解消

新型コロナウイルス感染症の感染予防対策として、新友館の二人部屋は一人で使用するものとした。不足した男子分の居室は、北友館の2階から3階の通路に間仕切りを行い、北友館3階を男子寮化することで対応した。

④寮生保護者向けのメール配信システム（マチコミ）の導入

寮生へはGoogle Classroomを利用して周知等を行っているが、寮生保護者向けの連絡手段が構築されていなかった為、メール配信システム（マチコミ）を導入した。

⑤寮食堂について

老朽化している厨房機器類（ガスレンジ、給湯器、シンク）を更新した。

また、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策として、飛沫防止パネルを各テーブルに設置し、座席数を90名程度に減らし、混雑する昼食時間を前半と後半に分ける入

替制を行った。

⑥集合点呼について

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策として、集合点呼の方法を見直した。

部分開寮時は、宿直者等が各棟に出向き点呼を実施し、人数が少なくなる週末は寮生が宿直室に出向く分散点呼方式を採用した。

全面開寮以降は、寮食堂を使って点呼を行うが、集合はせずに点呼が済んだらそのまま退出するドライブスルー方式により実施した。

⑦寄宿料免除について

台風被害を受けた新1年生2名から前期分の寄宿料免除申請があり、審査の結果、免除が許可された。

⑧宿直業務について

今年度から外部委託者の業務割振日について平日を1日増やし、教員の負担軽減を図った。

⑨避難訓練について

秋に地震を想定した避難訓練を実施した。

⑩寮務委員会

第1回 令和2年4月15日(水) メール審議

1. 4月分寄宿料の徴収について
2. 災害特例による寄宿料免除について
3. 令和2年度学寮運営方針について(報告)

第2回 令和2年5月26日(火)

1. 令和元年度寮費決算(案)について
2. 令和2年度寮費予算(案)について
3. 6月8日からの部分開寮について(報告)

第3回 令和3年1月28日(木)

1. 令和3年度学寮運営方針について
2. 茨城工業高等専門学校寮生心得の一部改正について
3. 「学寮生活の手引き」の改訂版について(報告)

第4回 令和3年2月24日(水) メール審議

1. 茨城工業高等専門学校寄宿舎規則の一部改正について

⑪学寮行事

期日	内容
令和2年4月2日(木)	荷物搬入のみ実施(コロナのため対面授業なし)
令和2年6月7日(日)	部分開寮(実験実習のための登校開始)
令和2年6月17日(水)	寮生保護者会総会(マチコミメールを使用)
令和2年7月19日(日)	1年寮生の体験入寮実施(前半)～22日まで
令和2年7月26日(日)	1年寮生の体験入寮実施(後半)～29日まで
令和2年9月6日(日)	全面開寮(対面授業開始)
令和2年10月21日(水)	学寮避難訓練(地震)
令和2年10月22日(木)	寮生総会(寮生会予算・決算)
令和2年12月5日(土)	寮祭(ビンゴ大会)
令和2年12月14日(月)	学寮建物等の美化作業
令和2年12月25日(金)	閉寮
令和3年1月5日(火)	開寮
令和3年2月11日(木)	退寮日、部屋替え
令和3年2月17日(水)	閉寮
令和3年3月3日(水)	新1年生の入寮面接

⑫規則等の改正等

- ・「茨城工業高等専門学校寮生心得」の一部改正
- ・「茨城工業高等専門学校寄宿舍規則」の一部改正

⑬物品庫の移動

寮生が使用する物品庫が手狭なため、放送室と入れかえた。放送器材の移設工事が必要だったため費用もかかったが、寮生が利用しやすい環境になった。

⑭寮生の体調管理

新型コロナウイルス感染症の感染予防対策として、Google フォームを利用した検温報告を寮生に毎日実施させた。開寮時は2週間前から平熱が続いていることを条件に入寮を許可した。また、寮生が体調不良になった場合は、発熱の目安を38度以上としていたが、37.5度以上に見直し、風邪に似た症状がある場合には速やかに保護者に連絡をとって帰宅するよう指導した。

(2) 自己評価（改善含む）及び課題

- ① コロナウイルスの影響で学寮運営が大変難しい1年だった。感染予防対策として二人部屋を解消し、昼食時間を入替制にした。また、茨城県のコロナ対策指針を参考に、その都度、寮生の行動を制限したり、共有スペースに利用制限を設けた。寮内の消毒作業を寮生の当番制で実施した。今後も感染予防対策を強化していく予定。
- ② コロナウイルスの影響で寮生間の交流できる機会が激減した結果、指導寮生から下級生への指導が行き届かず1年生が寮内のルールを理解できないケースが目立った。また寮生が孤立化してしまうことが懸念された。コロナ禍において、感染予防対策をとりつつ、いかに寮生間のコミュニケーションを図るかが重要である。
- ③ メール配信システム（マチコミ）を導入し、寮生保護者との連絡手段を構築したことはコロナ禍において大変有意義であった。開寮に向けたアンケートを実施したり、寮生保護者会の審議、寮費等の徴収に関する連絡を行った。引き続き利用していきたい。
- ④ 寮生の検温報告について、毎日報告する者と報告が滞る者との差が顕著であった。特に留学生は報告しない者が多かったので、新型コロナウイルス感染症の感染予防の必要性を説明しつつ今後も指導が必要である。

(3) 今後の展開

国際寮新設に向けて、寮生数も増え、短期留学生の受け入れも増えることから、寮生が安全で過ごしやすい学寮の環境整備を行う。

6. 広報活動（広報委員会）

（1）取組実績

広報活動については、学生、保護者、職員、卒業生及びその他関係機関並びに地域社会に対し本校を正しく認識してもらうことを目的として、広報委員会において立案の上、次の活動を行った。

①ホームページの改修及び情報発信

ホームページについては、広報活動の最重要な手段と捉えている。

今年度はホームページのセキュリティ強化のため、常時SSL対応へと改修した。

また、本校の各種行事や学生・教職員の活動については、随時ホームページで紹介すると共に、高専機構本部ホームページの「お知らせ」への掲載申請を行った。

②「学校要覧」の刊行

令和2年度版「学校要覧」を組織、研究活動、学生生活、在学状況、就職・進学状況等のデータを更新し、7月に1,000部刊行した。

主に求人企業、地域連携機関及び来客者等に配布し案内を行った。

③「What's 茨城高専？」の刊行

「What's 茨城高専？」を、入試広報用として6月に刊行した。

刊行部数は7,500部で、学校説明会等で中学生及び保護者へ、中学校訪問時に中学校教諭に配布し案内を行った。

④「高専だより」の刊行

「高専だより」は、本校の活動内容等を案内することを目的として学生及び保護者向けに、3月に刊行した。

⑤公開講座の開催

学校広報、社会貢献の一環として、中学・高校生、一般市民を対象に次のとおり公開講座を開講した。新型コロナウイルス感染症昨年度から引き続き、各講座の申込方法を本校ホームページからのWeb申込とし、申込みの簡便化と受付業務の効率化を図った。

講座の名称	受講定員	受講者数
ちょっと変わったプログラミング体験講座（オンライン）	30	31
Android ゲームプログラミング入門ー	20	27
計	50	58

⑥広報委員会

1)第1回

日時：令和2年4月22日（水）

- 議題：
1. 広報委員会規則について
 2. 広報委員会委員について
 3. 「What's 茨城高専？」（2021年度版）の編集について
 4. 「令和2年度版学校要覧」の編集について
 5. 「高専だより第115号」の編集について
 6. おもしろ科学セミナー2020について
 7. 令和2茨城高専が開講する公開講座について
 8. 出前授業について
 9. ホームページの更新について
 10. 「社会貢献活動の単位認定に関する申合せ」について

2)第2回

日時：令和2年7月29日（水）

- 議題：
1. 令和2年度公開講座について
 2. 令和2年度「高専だより115」号の発行について
 3. その他

3)第3回

日時：令和2年11月26日（木）

- 議題：
1. 令和3年度おもしろ科学セミナーについて
 2. 令和3年度公開講座の募集について
 3. 「高専だより第115号」の編集について
 4. その他

(2) 自己評価（改善含む）及び課題

- ① 本校教職員や学生の活動について引き続きホームページ上で積極的に情報発信を行っていく。
- ② 「学校要覧」及び「What's 茨城高専？」については、いずれも7月初旬までに刊行することができた。次年度以降も早期に刊行できるよう進めていく。「What's 茨城高専？」については広報室主導で掲載内容を見直し、「茨城高専キャンパスガイド2022」として発行する。
- ③ 「高専だより」については、次年度以降は経費削減の観点から紙媒体以外の形での発行を検討する。
- ④ 公開講座については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響から、2講座のみの開設に留まった。しかし、いずれの講座も定員を上回る応募があり、昨年度の目標で

あった定員充足率のアップは達成された。また、各講座は概ね好評であり、本年度の受講者アンケートでは約96%が「満足」した旨の回答であった。なお、本年度開講された講座の内1件は、Google Meetを使用したオンライン開催の講座であり、受講者からは「コロナ禍のため自宅で受講できたのはありがたかった」「コロナ禍によりオープンキャンパスに参加できなかったので、専攻を考える上でもこの講座の開催がありがたかった」等の感想が寄せられた。次年度以降もコロナウィルス感染症の影響が続き本校の広報活動を対面で行う機会の減少が予想されるため、オンラインでの公開講座開催も積極的に検討していく。

(3) 今後の展開

独立行政法人の予算が年々削減される中で、経済的かつ効果的な広報の方法の検討が必要となってくる。令和3年度から広報室が設立され、今後は広報室立案の方針の下で、広報誌やホームページに加えてYoutube等のSNSも活用しながら積極的に本校の情報を発信していく。また、公開講座やおもしろ科学セミナー等のイベントを本校の広報活動の機会ととらえ、企画内容の充実を図っていく。

7. 学生健康支援（学生健康センター）

（1）取組実績

学生の心身の健康維持及び向上を図るとともに、健全な学生生活を送る援助を行うことを目的として、次の活動を行った。

- ① 学生のメンタルヘルスに関する取り組みを実施した。
 - ア. 1年生とカウンセラーによるグループカウンセリング：中止
 - イ. 留学生とカウンセラーによるグループカウンセリング
 - ウ. DV 予防教育セミナー（1年）：中止
 - エ. カウンセリング講座（3年）：中止
 - オ. 学生寮指導員とカウンセラーの情報交換会
 - カ. 「相談室だより」の発行
- ② 教職員が関連する研修会に参加し支援体制の充実を図った。
 - ア. 発達障害への支援セミナー（学内）を開催（オンライン）
 - イ. 心の問題と成長支援ワークショップ（JASSO）（オンライン）へ参加（副学生健康センター長）
 - ウ. 全国国立高専学生支援担当教職員研修会へ参加（センター長、看護師2名）（オンライン）
 - エ. 茨城県立健康プラザ講座へ参加（看護師）
 - オ. 茨城県社会福祉協議会セミナーへ参加（看護師）
- ③ 運動部所属学生及び寮生を対象に「普通救命講習会」（AED使用方法）：中止。
- ④ エピペン講習会：中止。
- ⑤ 献血：中止。
- ⑥ 学校環境衛生検査（学校飲料水水質検査、学校プール水水質検査、騒音検査、空気検査）を実施した。
- ⑦ 「こころと体の健康調査」（自殺予防のためのチェックリスト）WEBによるアンケートを実施した。
- ⑧ 学生定期健康診断、（歯科検診含む）を実施した。
- ⑨ 「学生総合補償プラン保険」の募集を行った。
- ⑩ 「日本スポーツ振興センター」の給付金請求事務を行った。
- ⑪ 体育大会等の救護：中止。
- ⑫ 怪我や急病の応急処置、付き添い、健康相談、医療機関紹介・連絡を行った。
- ⑬ 学生相談室のインターカー業務を行った。
- ⑭ 「特別支援教育室」における業務補助を行った。
- ⑮ 学生健康センター内打ち合わせを実施した。

- ⑯ 新型コロナ感染症予防対策を講じた。
 - ア. 来室時の呼び出しインターフォンの設置
 - イ. 体調不良者用の休養室の増設、整備
 - ウ. サーモ体温測定機の設置
 - エ. 非接触型体温計の利用
 - オ. 非接触型自動消毒機の設置
 - カ. 体調不良者の対応フローの作成
 - キ. 感染予防パネルの設置
 - ク. 換気設備の一部整備（網戸）
- ⑰ 学生健康センターホームページのリニューアル。
- ⑱ 学生相談室の整備。
 - ア. 予約方法の見直し（WEB）予約
 - イ. 箱庭療法の設置
- ⑲ 新入生「健康管理調査書」の活用についての見直し。
- ⑳ 救急体制の整備。
 - ア. AED の設置
 - イ. 車椅子の増設

（２）自己評価（改善含む）及び課題

- ① コロナ禍により実施の見送りとなったグループカウンセリングやセミナーの代替えとして「学生相談室だより」を発行し、これまでと違った学校生活をより健全に送れるよう情報発信すると共に学生相談室やカウンセラーについて理解を深め、より親近感を持ってもらうことに努めた。
- ② ア) オンラインによるセミナーを実施し、当日参加できなかった教職員もオンデマンド配信の視聴を可能にした。
 - イ) オンラインによるセミナーへ参加
 - ウ) 例年とは違ったセミナーの参加であったが、有意義な研修会となった。
 - エ) 対面による講座 アナフィラキシーへの対応とエピペンの使い方を学んだ
 - オ) 対面によるセミナー ゲートキーパー研修
- ③ コロナ禍により中止
- ④ コロナ禍により中止
- ⑤ コロナ禍により中止
- ⑥ 学校薬剤師により実施した。基準値内であり良好な環境である事を確認した。
- ⑦ WEB形式によるアンケート調査を実施し調査結果を踏まえ担任とカウンセラーによる情報共有を図った。発達特性を持つ学生の支援体制を「特別支援教育室」との連携をとり進めた。

- ⑧ 時期や実施方法について、感染予防対策を講じ分散により実施した。健康管理を徹底し有意義な学校生活を送れるように今後も受診率の向上に努める。
- ⑨ 安心して部活動に励めるように、加入を推奨した。
- ⑩ 学校管理下内での怪我に対して請求を行い情報共有し漏れが無い様に対応した。
- ⑪ コロナ禍により中止。
- ⑫ 不意に起こる応急処置や急病に対し、関係者間の連絡を密に行い、急病や怪我の応急処置を適切に行った。
- ⑬ メンタルの問題を抱え、体調不良の訴えにより休養する学生に対して、懇切丁寧に対応し、関係の精神科医師やカウンセラー、教員、センター内のスタッフにより適切な情報共有を行った。
- ⑭ 「特別支援教育室」の体制整備について、特に見える化に努め適切な情報提供が出来るよう学生相談室のカウンセラーを中心に業務補助した。
- ⑮ 合理的でより良い支援を行うために、定期的な打ち合わせの機会を持ち、課題を出し合い取り組んだ。
- ⑯ 新型コロナ感染症予防対策の取り組み強化を図った。
- ⑰ 学生健康センターを気軽に利用出来るよう必要な情報を簡潔明瞭に掲載し HP のリニューアルを図った。
- ⑱ コロナ禍でも、必要時気軽に予約が出来るよう WEB 予約法を導入した。
- ⑲ 「健康管理調査書」の情報共有を行い入学後の速やかな対応に繋げた。
- ⑳ 車椅子設置の整備と AED を増設し救急体制の充実を図った。

(3) 今後の展開

学生健康センターとして、感染症予防対策の徹底に努め学生が不安なく、充実した学生生活を送れるよう支援を行う。また、新型コロナ感染症対策に伴う学校生活の環境の変化に、順応出来るよう支援に努めメンタル不調の学生に早期に気づき適切な対応を行えるようより一層引き続き関係教職員、外部機関との連携に努める。

8. 図書館運営（学術総合情報センター）

（1）取組実績

本校図書館は和書・洋書あわせて約8万9千冊の蔵書があり開架式となっている。コンピュータを用いた図書データベース・電子ジャーナルの検索も充実しており、学生・教職員の学習や調査研究の支援を行っている。

理工系専門図書のほか、文学・哲学などの書籍も多数所蔵している。加えて、平成24年度からは電子書籍を導入し、新しいサービスの提供を開始しコレクションを拡大している。

また、開館時間の延長・土曜日開館を実施することにより利用の拡大を図っている。

開かれた図書館として地域市民に閲覧・貸出を行い、地域への貢献を推進している。

①新型コロナウイルス感染拡大防止対策の実施

■ 日本図書館協会の「図書館における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」や他高専図書館、大学図書館、近隣公共図書館の開館状況を参考に本校図書館における対策を実施した。

- 令和2年4月1日から一般利用者開放の休止（ホームページで案内）
- 短縮開館の実施（時間 8:30～17:00、休館 土・日・国民の休日）
- 閲覧室学習機の利用の休止
- 教員・一部学生（専攻科生・5年生）限定の長期貸出の実施
- 登校日にあわせた貸出中図書の返却日の延長
- 貸出資料返却時のブックポスト（玄関前に有り）利用の推進
- 図書館サービスカウンターの飛沫防止対策の設置
- 入館の際は、マスクを着用、入口でのアルコール消毒の徹底
- 図書館利用受付簿の記入
- ソーシャルディスタンスの確保、滞在時間の制限

②図書館棟改修工事に伴う臨時図書館の開館

■ 令和2年9月7日から令和3年4月9日

- 開設場所：10号館2階リフレッシュルーム
- 短縮開館の実施 時間 8:30～17:00（休館日 土・日・国民の休日）
- 貸出図書：毎年貸出利用の多い図書など約800冊を配架
- 対象者：学生・教職員
- 利用サービス：予約による図書貸出
 - * 図書館ホームページ「臨時図書館【貸出図書一覧】」に掲載
- 貸出方法：図書館WEBサイトの貸出リストから希望図書をEメールで予約の上、臨時図書館窓口で貸出受取り

- 予約申込:図書館メールアドレス宛に学年・氏名・学籍番号・貸出図書一覧の [No.] を入力し申込み。
- 返却方法:貸出資料の返却用ブックポスト(玄関前に有り)利用の推進

③行事实施

1) 図書館ガイダンスの実施

(新入生対象、新入留学生対象に例年4月に実施)

⇒ 新型コロナウイルス感染拡大防止対策による前期遠隔授業のため実施を中止した。

2) ブックハンティングの実施(学生図書委員会)

期 間:令和2年10月28日(水)～令和2年11月30日(月)

クラスごとに希望図書を募り、リストを図書館へ提出。

合計93冊の図書を購入した。(経費:後援会費)

3) 第21回図書館カフェの開催

(図書館では、知的情報の拠点を目指すことを活動計画の一つとして挙げており、例年秋季に本校教員の研究に関連したテーマで講演会を開催)

⇒ 図書館棟改修工事及び新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催を中止した。

4) 第5回ビブリオバトルの開催

(例年秋季に文章やイラストで推薦本を紹介する本校独自の書評合戦を開催)

⇒ 図書館棟改修工事のため開催を中止した。

④企画展示の実施

1) 「ブックハンティング図書」の展示(経費:後援会費)

展示物:学生からのリクエスト図書

2) 「教員推薦図書」の展示(経費:後援会費)

展示物:先生方より推薦された専門図書・参考書等

3) 各賞受賞作品の展示

展示物:2020年本屋大賞受賞作品、第163回・164回 芥川賞・直木賞作品

⑤図書館環境整備

1) 返却用ブックポストの整備

図書館棟入り口に設置していた返却用ブックポストを錆による老朽化の為、ステンレス製を新たに購入し設置した。

2) 除菌 BOX の設置

新型コロナウイルス感染防止対策の中、図書館資料の除菌の需要が高まり、除菌 BOX を設置した。

⑥各種図書コーナーの配置

1) 新着図書コーナー

毎月の継続図書や新着図書を配架。

2) 英語コーナー

英検参考書や TOEFL、IELTS の参考書を展示。

3) 新書コーナー

4) シラバスコーナー

その年のシラバスに合わせて毎年見直しを行い、テキストを整備し学年別に配架。

5) 大学編入学対策コーナー

6) 進路資格コーナー

資格取得や就職活動に役立つ資料を配架。

7) F E 受験コーナー

F E 試験 (Fundamentals of Engineering Exam) 対策の参考書・問題集を配架

8) 本校教員著書コーナー

9) メンタルヘルスコーナー

10) 文芸部「地雷」コーナー

文芸部誌『地雷』を配架し、活動を応援。

11) 留学生コーナー

留学生におすすめの図書を配架。タイ留学生を対象にした英語、タイ語の書籍を整備。

12) グローバル図書コーナー

グローバル関連の図書 342 冊を配架。

13) 国連コーナー

国連関連図書に加え、国際連合広報センター発行の広報誌『Dateline UN』国際協力機構広報誌『mundi』を置き、タイムリーな国際情勢を紹介。

⑦令和 2 年度整備資料

1) ブックハンティング図書 97 冊 (後援会より寄贈)

学生図書委員を中心に各クラスで選書した本のため利用率が高い。

2) 教員推薦図書 129 冊 (後援会より寄贈)

教員から推薦された、学習、レポートに役立つ専門書・参考書、その他お勧めの図書などを購入した。併せてシラバス掲載の図書 170 冊を整備した。

3) 専門書 95 冊 (後援会より寄贈)

新出題形式対応 TOEIC 等を購入し、利用者の多い TOEIC コーナーを充実させた。

4) 各賞受賞作品 23 冊 (うち後援会より寄贈 16 冊)

芥川賞・直木賞、本屋大賞受賞作品を購入、展示した。

5) 学生希望図書 27 冊 (後援会より寄贈)

学生のリクエスト図書 (主に専門書) を受付け、未所蔵図書を購入した。

6) 教員著書 6 冊 (うち後援会より寄贈 4 冊)

茨城高専の教員の著書コーナーへ展示した。

7) タイ政府奨学金留学生用日本語多読用図書 237 冊

留学生対象の多読図書を教員の推薦リストで購入。留学生コーナーへ展示した。

⑧蔵書構成等 (令和 2 年度)

1) 図書

分類	和書	洋書	計
総記	3,661	276	3,937
哲学・宗教	3,968	903	4,871
歴史・地理	6,255	243	6,498
社会科学	6,398	313	6,711
自然科学	14,863	2,739	17,602
技術工学	14,258	1,760	16,018
産業	743	18	761
芸術	4,236	102	4,338
言語	5,772	3,225	8,997
文学	17,923	1,458	19,381
計	78,077	11,037	89,114

2) 電子書籍

和書	洋書	計
46	133	179

3) 雑誌

和雑誌	洋雑誌	計
285	127	412

4) 定期購読

- ・国内雑誌：43 誌 (うち後援会寄贈雑誌 21 誌は、図書館閉館のため 5 月号～購読休止)
- ・新聞：5 誌 (茨城新聞、毎日新聞、読売新聞、日本経済新聞、日刊工業新聞)

⑨研究支援活動

1) ILL利用状況

- ・外部図書館からの貸借受付：7件
 - ・外部図書館への貸借依頼：113件
 - ・ILLシステム以外の公立図書館との相互貸借 1件
 - ・ILLシステム以外の国立図書館への依頼 3件
- (R2. 8.22～R3. 4.25の期間、図書館棟改修工事に伴うILL受付サービスの停止)

2) 電子ジャーナル利用

電子ジャーナル名	契約形態
Science Direct (Elsevier 社)	高専コンソーシアム
AIP Publishing (American Institute of Physics)	高専コンソーシアム
APS Physical Review Journals (American Physical Society)	高専コンソーシアム
ScienceOnline (America Association for the Advancement of Science)	高専コンソーシアム
Springer Link (Springer・Nature 社) 高専向けパッケージ	本校個別契約

3) 文献検索データベース利用

データベース名	契約形態
JDreamIII (科学技術振興機構)	高専コンソーシアム
MathSciNet (AMS: American Mathematical Society)	高専コンソーシアム
朝日けんさくくん (朝日新聞データベース)	本校個別契約

⑩図書館開館状況、入館者数、貸出冊数 (令和2年度)

- * 正規の時間内開館： 平日の午前8時30分～午後5時
- * 時間外開館 夜間開館： 平日の午後5時～8時 (2年度開館なし)
- * 時間外開館 土・日曜開館： 午前10時～午後5時 (2年度開館なし)

1) 開館状況(月別開館日数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
正規時間	22	18	23	22	18	20	22	19	19	18	16	21	238
時間外(夜間)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
時間外(土曜日)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
時間外(祝・日曜日)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計(正規+土・日)	22	18	23	22	18	20	22	19	19	18	16	21	238

2)入館者数(入館者カウント装置から算出)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
正規時間	1,449	421	558	724	532	443	
時間外(夜間)	0	0	0	0	0	0	
時間外(土曜日)	0	0	0	0	0	0	
時間外(祝・日曜日)	0	0	0	0	0	0	
合 計	1,449	421	558	724	532	443	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
正規時間	898	995	1,329	863	715	580	9,507
時間外(夜間)	0	0	0	0	0	0	0
時間外(土曜日)	0	0	0	0	0	0	0
時間外(祝・日曜日)	0	0	0	0	0	0	0
合 計	898	995	1,329	863	715	580	9,507

3)一般利用者入館者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入館者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

4)利用者区別貸出冊数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
1年生	0	0	0	0	0	0	1	0	3	1	8	0	13
2年生	0	0	0	0	0	9	7	3	3	4	10	0	36
3年生	4	0	0	0	0	6	17	13	15	3	54	13	125
4年生	10	0	0	0	0	3	22	18	28	14	32	25	152
5年生	85	0	0	36	31	17	25	15	41	22	19	24	315
専攻科	15	0	4	16	5	12	9	14	25	5	26	10	141
教員	11	5	4	41	59	25	8	0	3	0	5	12	173
職員	37	5	2	33	43	1	7	3	3	2	0	1	137
非常勤講師	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
一般	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	163	10	10	126	138	73	96	66	121	51	154	85	1,093

①会議等の開催

1) 第 21 回関東信越地区高等専門学校図書館協議会

開催当番校：群馬工業高等専門学校

⇒新型コロナウイルス感染防止のため次年度に延期

2) 令和 2 年度高等専門学校及び技術科学大学図書館情報交流集会

日 時： 令和 2 年 12 月 17 日（木） 10 時 00 分～15 時 00 分

場 所： Teams によるオンライン開催

参加者： 木村 保，関 幸子，木村 早苗，平塚 美帆，宮川 典子，丹野 佐和子

テーマ：「第Ⅲ期統合図書館システムの基本的な操作について」

(2) 自己評価（改善含む）及び課題

①新型コロナウイルス感染防止対策のため、令和 2 年 4 月 1 日から図書館の一般利用者への開放を停止した。また、4 月 17 日に緊急事態宣言の特定警戒都道府県として茨城県が指定され、緊急事態措置による休業要請施設となり、4 月 22 日から臨時休館とした。

②令和 2 年度図書館棟改修工事のため、令和 3 年 3 月まで図書館を臨時休館とし、改修工事に伴う図書館資料等の物品移転作業を 8 月下旬から 9 月上旬にかけて実施した。また、9 月 7 日から 10 号館に臨時図書館を開設し、研究支援活動や図書の一部貸出しサービス等を実施した。

③ブックハンティングや企画展示を実施し、また、各種コーナーの図書を充実させ、更に利用者が増えるよう、図書館改修後は各種コーナーの配置を移動して図書館利用者の興味をひく取組を推進していく。

④電子ジャーナルの利用料金が年々値上げされていくなか、年々削減される図書館運営経費から必要経費を捻出し、図書館活動の向上と教育・研究情報サービス機能の強化・推進を図る。

⑤本校ホームページの図書館 WEB サイト活用による情報発信や図書館利用サービスを提供するため、サイト内の情報を整理して充実させる。

⑥図書館管理業務を外部委託契約により実施しているが、今後も継続して実施していく。

(3) 今後の展開

①平成30年4月20日、第四次「子供の読書活動の推進に関する基本的な計画」が閣議決定され、高校生の読書関心度合いの低下、スマートフォンの普及等による読書環境への影響などの現状から、読書習慣の形成に向けての取組、読書への関心を高める取組、自学自習の環境整備などについて検討していく。

②図書館における新型コロナウイルス感染防止対策を継続して実施し、図書館利用者の感染予防に努める。

③令和3年度図書館棟耐震改修工事に伴い図書館を臨時休館とする場合においても、研究支援活動や図書の予約貸出しサービス等を実施するなど、図書館の利用環境を保持できるよう取り組む。

9. 情報化推進（学術総合情報センター・情報セキュリティ管理委員会）

（1）取組実績

情報センター等では、ICT 授業や業務を円滑に行えるような環境整備、PC 等の利用におけるサポート及び情報セキュリティ強化等について、次の活動を行った。

①サーバの更新

老朽化した学内の教職員ファイルサーバ及び事務部ファイルサーバについて、統合の上、サーバの更新を行った。

②多要素・多段階認証の導入

教職員及び全学生に導入している情報システムサービス（Microsoft 3 6 5）について、全教職員へ多要素・多段階認証を導入した。

③校内LAN施設の一部改修

10Gbps へ対応するため、校内の一部の光ケーブル及びLANケーブルの改修工事を行った。

④情報セキュリティ関係規則の一部改正について

国立高専機構の情報セキュリティポリシーに係るソフトウェア管理規則等が改正されたことに伴い、本校の以下の規則の改正を行った。

- ・ 茨城工業高等専門学校情報セキュリティ管理規程
- ・ 茨城工業高等専門学校情報セキュリティ推進規程
- ・ 茨城工業高等専門学校情報セキュリティ教職員規程

⑤情報セキュリティ教育・訓練

情報セキュリティに対する意識の向上を目的として、学生（新入生）及び全教職員対象とした、情報セキュリティ教育を e-Learning で実施し、併せて、誓約書の提出を実施した。

また、教職員対象に、標的型メールの対応訓練を実施した。

（2）自己評価（改善含む）及び課題

- ① ファイルサーバの更新は、2 台稼働していたサーバを統合したことにより、管理の合理化を図ることが出来た。
- ② 情報システムサービス（Microsoft 3 6 5）への多要素・多段階認証の導入により、情報セキュリティの強化を図ることが出来た。今後は全学生及び他の導入しているソフトウエ

アへの導入を計画していく。

- ③ 校内LANは、今回の改修により10Gbpsを導入する際の設定が整った。
- ④ 今回の情報セキュリティ関係規則により、機密情報の情報格付けをより明確に提示することを実現した。
- ⑤ 全教職員及び全学生へ情報セキュリティの誓約書の提出とe-Learningを実施したことにより、情報セキュリティへの意識付け及び注意喚起を図ることが出来た。

(3) 今後の展開

情報セキュリティへの対策は、年々厳しくなっていることから、有線LANへのMAC認証の導入及びソフトウェアへの多要素・多段階認証の導入を計画し順次導入を図っていく。

10. 国際化推進（グローバル教育センター）

（1）取組実績

国際化推進については、グローバル教育センター会議で立案し、筑波大学連携事業、留学生受入及び協定の更新などの取り組みについて、各所掌において着実に実行に移した。新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大が続いたため、今年度は海外学生派遣・受入や海外大学への視察等は実施を見送った。

令和2年度も、高専機構の「高度グローバルエンジニア育成プログラム」にも採択され、今後、従来からの取り組みをさらに発展させていくための準備にも着手した。（各内容は、以下の該当事項のとおり。）

①筑波大学連携事業 グローバル工学基礎（PBL 演習）

令和2年8月24日（月）から8月28日（金）の5日間、筑波大学大学院の外国人留学生をティーチングアシスタントに夏季集中講義・グローバル工学基礎（PBL 演習）をオンラインで実施した。今年度のテーマは“Energy Consumption Trend and Global Warming Scenario”で、28人の学生（4年生27人、5年生1人）が受講した。

②留学生（正課生）の受入

本科3年生に男子3人（マレーシア、モンゴル、タイ）、本科1年生に男子2人（タイ）の計5人の留学生を新たに受け入れた。新型コロナウイルス感染症の影響で、4月に受け入れが出来たのは1名で、全員の受入が完了したのは11月だった。受入までの期間、留学生に対して遠隔授業を行った。

③タイ留学生受入

令和2年度も本科1年次にタイ留学生を2名受け入れた。新型コロナウイルス感染症拡大防止の影響により、令和2年10月22日に来日後、2週間の待機期間を経て令和2年11月6日に本校へ到着した。来日するまでの授業は、日本人学生と同様に遠隔により受講した。また、浜元先生による日本語指導も遠隔により実施した。令和2年度末におけるタイ留学生在籍者は6名（本科1年：2名、本科2年：2名、本科3年：2名）であり、6期生（2023年度入学）まで受入を予定している。

④本校留学生の活動支援

留学生の健康管理のため成人病検診（血液検査）、インフルエンザ予防接種、麻疹抗体検査を実施した。麻疹抗体検査の結果、抗体値の低い留学生に対しては予防接種を促しているが今回の該当者はいなかった。

⑤ひたちなか市国際交流協会との連携

米倉達広校長がひたちなか市国際交流協会の副会長を務めた。令和2年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、各種行事等の実施が見送られたが、理事会への出席を通じて地域と本校との国際分野での連携を深めた。

また、例年、ひたちなか市国際交流ボランティアバンクを通じて本校留学生のホストファミリーを依頼しているが、新型コロナウイルス感染症の状況を鑑み、令和2年度の委嘱は見合わせた。

⑥第2ブロックグローバル化推進会議

令和2年12月15日(火)に、「令和2年度 第2ブロックグローバル化推進協議会」が木更津高専を当番校としてオンライン(Teams)で開催された。本校を含め第2ブロック内の9高専からグローバル化担当の教職員計15人が参加し、各高専におけるグローバル事業についての情報共有ならびに連携の模索、海外インターンシップの情報共有や合同開催による内容の充実と教員負担の軽減の可能性などについて話し合った。

⑦協定の締結

(1) ガジャ・マダ大学職業訓練大学 (インドネシア)

令和2年6月18日付けで、ガジャ・マダ大学職業訓練大学との覚書を更新した。これは、平成27年に締結した覚書の有効期限に到達することに伴うもの。今後は、期間中両機関から異議がない場合は継続される。

(2) グアナファト大学 (メキシコ)

令和3年4月16日付けで、グアナファト大学との覚書を更新した。これは、平成27年に締結した覚書の有効期限に到達することに伴うもの。有効期間は5年間。

⑧エンパワーメントプログラムの実施 (総務係)

令和3年2月15日(月)から2月16日(火)の2日間、本科1～3年生の希望者7名を対象に「エンパワーメントプログラム」を実施した。これは、高専機構の「高度グローバルエンジニア育成プログラム」の一環として行われたもの。このプログラムは、レフィクシア株式会社代表取締役の高安基大氏を講師に招き、起業マインドを持ったグローバルエンジニアの育成を目的として以下の7講座が合計10時間にわたって実施された。

日 程	時 間	講義タイトル	教育内容
2/15(月) 1日目	10:00～12:00	トランプで創造性を学ぶワークショップ	スタンフォード大学発祥のトランプを使った創造性と課題解決の思考法
	13:00～14:30	交渉学	ハーバード大学発祥の戦略的な交渉の手法
	15:00～16:30	ロジカルシンキング講座	論理的な思考・説明の手法
2/16(火) 2日目	10:00～12:00	デザイン思考ワークショップ	スタンフォード大学発祥の課題発見・解決策提案の思考法
	13:00～14:00	オプティミスト思考術	ペンシルベニア大学心理学の研究による悲観から楽観へ変えるための思考法
	14:15～15:15	チームビルディング	スタンフォード大学発祥のチームメンバーの特徴（長所・短所）を理解する手法
	15:30～16:30	フェルミ推定講座	フェルミ推定による損益計算手法

⑨グローバル教育センター会議

1) 第1回

開催日：令和2年4月24日（金）

- 議 題：1. グローバル教育センター規則・構成員について
2. 留学生検疫について
3. センター関連予算と報告事項について
4. 今年度の業務分担について
5. 令和元年度センター報告書について
6. その他
(1) 協定校へのレターについて
(2) Microsoft Teams の活用について

2) 第2回

開催日：令和2年10月22日（木）

- 議 題：1. 令和2年度グローバルエンジニア育成事業について
2. 協定の更新について
3. 令和2年度グローバル教育センター業務分担について
4. 令和2年度グローバル教育センター予算について
5. 令和2年度タイ留学生受入関係予算について

6. その他

- ・タイ留学生の状況について

(2) 自己評価（改善含む）および課題

①グローバル工学基礎（PBL 演習）

今年度からグローバル副専攻の学生が必修科目として受講したため、受講者が例年よりも増加した。コロナ禍ではあったが、オンラインで開講することができた。

②留学生（正課生）の受入

留学生（正課生）の受入れ時には、住民登録や国民健康保険加入、口座開設、携帯電話購入など各種手続きの支援が必要となってくるが、本科1年生の場合は、年齢が低いことと日本語能力が不十分であることから受け入れ時には更にきめ細やかな支援が必要である。

③タイ留学生受入

タイ留学生の受入は、令和2年度現在6期生（2023年度入学）までの予定である。1期生から3期生までに実施した学習・生活支援に係るノウハウや情報を集め、受入れている学生及び今後受け入れる学生に対して、より良いサポートが図れるよう関係者と情報を共有する。

④本校留学生の活動支援

留学生の麻疹予防接種については、出身国によって制度や健康管理に対する意識に温度差があるため、必要性について理解してもらうことが困難であるが、学生寮で健康に集団生活を送るためにも引き続き推奨していく。

⑤ひたちなか市国際交流協会との連携

次年度以降も連携を続け、更なる関係の強化を図っていく。

⑥第2ブロックグローバル化推進会議

第2ブロック内の各高専におけるグローバル推進担当者、協定校、令和元年度の学生派遣・受入実績、令和2年度の学生派遣・受入予定等の情報共有だけでなく、学生派遣に関する悩みや懸念について互いに情報の蓄積を図った。

⑦協定の締結

今年度は2件の協定を更新したが、コロナ禍の影響もあり、先方との調整において、時間を要することが多かった。

⑧エンパワーメントプログラム

定員 20 名に対し参加者が 7 名と定員充足率は低かった。しかし、参加学生を対象としたアンケートでは、全員がプログラムに「満足した」「期待どおりだった」と回答し、学生からは高い満足度を得た。また、本プログラムの目的は「企業マインドを持ったグローバルエンジニアの育成」としていたが、講義終了後の参加学生対象のアンケートから、各講義の目的事項の学びを得ていることが確認できた。

(3) 今後の展開

新型コロナウイルス感染症流行の完全な収束の見通しが立たないことから、令和 3 年度も学生の海外派遣や受入の実施を見送ることとなった。年間の留学生行事も例年から大幅な変更を余儀なくされ、歓迎会等の行事は中止となった。

一方で、ICT を活用したオンラインでの海外協定校との交流を積極的に検討し、物理的な往来が難しい中で新たな交流の方法を模索していく。ICT を活用した取組では、従来、経済的な理由や長期間の不在が困難である等の理由で海外研修や海外留学への参加をためらっていた学生にも国際交流の機会を提供できるだけでなく、奨学金や事業予算等に頼らない持続可能な国際交流スタイルの構築につなげていくことも期待できる。

1 1. 男女共同参画推進（男女共同参画推進センター）

（1）取組実績

教育活動全般を通じた男女共同参画の推進、仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）を図るための環境整備、男女共同参画の意識啓発などを目的とし、男女共同参画推進センター運営委員会で立案の上、次の活動を行った。

①「女性教員紹介リーフレット」の作成

本校の女性教職員を写真及びメッセージにて紹介するリーフレットを作成した。裏面は、「茨城高専ポスター『わたしたち、高専生です』」の縮小版を印刷した。

発行部数は1,000部で、主に中学校に郵送した。

②「茨城高専ポスター『わたしたち、高専生です』」の作成

本校では、女性のさらなる社会進出を応援すべく、女性エンジニアの育成・輩出に努めている。技術者・科学者をめざす女性たちの夢を後押しする教育機関として、高専の存在をより広く知っていただくことを目的とし、本ポスターを作成した。

発行部数は250部で、主に中学校に郵送したほか、ひたちなか市庁舎及び商工会へ郵送し、掲示を依頼した。

③女子中学生向けパンフレット「Girls × Technology」の配布

女子中学生を対象に、女子学生目線で本校を紹介することを目的とし、本校女子学生が中心となり編集し作成した。

令和元年度に作成した500部を中学校に郵送した。

④盗聴器等調査の実施

男女共同参画推進センター運営委員会委員と女性教職員の協力のもと、校内男子トイレ、女子トイレ、男子更衣室及び女子更衣室の盗聴器等の有無を目視にて調査し、盗聴器等の不審物が無いことを確認した。

⑤第二学年対象ジェンダー講演会の実施

LGBT やジェンダーに関する考え方について見識を深めることを目的として、次のとおり講演会を開催した。

- ・ 開催日：令和3年1月12日（火）
- ・ 対象者：第2学年学生
- ・ 講師：LGBTQ 支援団体 RainbowCreate 代表 定政 輝氏

⑥女性関連設備整備の実施

コロナ禍における職場環境について、先行して女性教職員に対して Google Forms によりアンケートを実施した。また、続いて全教職員に対しても同様のアンケートを実施して、環境の改善に役立てた。

⑦男女共同参画推進センター運営委員会

1) メール審議

開催日：令和2年5月28日（木）

- 議題：1. 高専女子PRポスターの作成について
2. 女性教員紹介リーフレットについて
3. その他

(2) 自己評価（改善含む）及び課題

- ① 「茨城高専ポスター『わたしたち、高専生です』」は、本校の存在と男女共同参画推進の取り組みを、一般市民に広く認知してもらうことを目的としている。ひたちなか市庁舎等に配布したことにより、ある程度本校の認知向上に繋がったと思われる。「女子中学生向けパンフレット Girls × Technology」「女性教員紹介リーフレット」については、女子中学生に好評であったため、次年度も引き続き配布を行う。
- ② 盗聴器等調査の実施について、女子トイレ、女子更衣室に加えて、男子トイレ、男子更衣室も調査の対象とした。全教職員の不安解消、不審者及び不審物設置防止を目的とし、次年度も引き続き調査を行う。
- ③ 男女共同参画推進センター主催の講演会について、学生の意識向上がみられた。次年度も引き続き開催を開催する。
- ④ コロナ禍における職場環境について、全教職員に対してアンケートを実施し、整備が必要な設備等の情報を収集した。次年度も引き続き、男女問わず施設整備の調査を行い、校内環境向上を図る。

(3) 今後の展開

ジェンダー及びLGBTに関しては重要な課題として捉えており、講演会等を実施して学生及び教職員の見識の向上を図っているが、今後は社会の動向を注視しながら、より一層の見識の向上及び施設の整備を図っていく。

1 2. 地域連携・研究活動（副校長（地域連携・評価）、地域共同テクノセンター）

（1）取組実績

地域連携・研究活動については、研究活動の活性化と、社会・地域との交流を促進するシステムづくりに努め、茨城高専から情報を発信し、教育研究上の成果を社会・地域に積極的に還元する取組を行い社会貢献することを目的として、副校長（地域連携・評価）並びに地域共同テクノセンターにおいて立案し、次の活動を行った。

【副校長（地域連携・評価）】

①キャリア教育関係

1) キャリアデザイン講座の実施

本科3年生を対象に、地元企業の技術者を講師として招いて行う、「キャリアデザイン・基礎講座」及び本科1年生を対象に、本校専攻科生を講師として行う「キャリアデザイン・スタートアップ講座」については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から中止した。本科4年生、専攻科1年生を対象に、自己分析シート、エントリーシートの添削指導及び模擬面接指導を行う「キャリアデザイン実践講座」については、茨城工業高等専門学校同窓会の協力のもとオンラインで行われ、メンター（講師）12名を選出いただき、7人が受講した。

2) オンラインジョブセミナー2020の開催

例年、茨城高専の第1体育館において開催しているジョブセミナーは、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点からオンラインでの開催とし、2月8日～2月19日の期間に実施した。各社の資料をGoogleDrive上で公開する方法で行われ、25社の企業が参加した。資料の閲覧は10月31日まで可能としている。

②茨城高専地域協働サポートセンター（以下「サポートセンター」と記載）関係

1) 茨城高専活動支援

教育研究助成のためとして300,000円の寄付金を受領し、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止対策事業として、図書館に貸出図書を除菌する除菌BOXを導入した。

2) 卒業生の就職相談関係

令和2年度は茨城高専HPに掲載している卒業生就職相談窓口を通して1件の就職相談を受けた。就職相談依頼からの流れは、

- （1）本校HPの卒業生就職相談窓口を見て本校へ申込
- （2）サポートセンター役員と相談依頼者とのヒアリング日程調整
- （3）ヒアリングの実施（都合が合えば相談依頼者の担任や卒業研究担当教員も同席）
- （4）相談依頼者の就職に対する思いを考慮した上で該当する企業をアドバイス。

【相談結果】ヒアリング実施後を記載

・就職相談 1 人目

県内企業へ就職が決まる。

③茨城高専ギャラリー2021

1) キャリアデザイン講座の実施

3月に「茨城高専ギャラリー2021」を開催予定であったが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から中止した。

【地域共同テクノセンター】

①茨城高専知財委員会による審査

発明等届審査：2件、学校裁量審議：1件、審査請求等審議：1件、年金納付審議：4件を実施した。詳細は下記のとおり。

区分	名称	担当教員	審査結果
発明等届	ケーブル配線ロボット ※企業との共同出願	M系 長谷川 准教授	機構へ提出
発明等届	微粒子・疑集体の分析装置並びに分析方法 ※福島高専、福島大学との共同出願	E系 若松教授	機構へ提出
学校裁量	微粒子・疑集体の分析装置並びに分析方法 ※福島高専、福島大学との共同出願	E系 若松教授	権利化する
審査請求等	特願 2018-143039 電流検出装置 ※企業との共同出願	E系 長洲教授	審査請求する
年金納付	特許登録第 5626914 号 生体高分子の結晶化装置、生体高分子の結晶化溶液セル、生体高分子の配向制御方法、生体高分子の結晶化方法、及び生体高分子の結晶 ※高専機構単独	E系 若松教授	年金納付する 第7年分
年金納付	特許登録第 5821127 号 タンパク質結晶化分析装置及びタンパク質結晶化分析方法 ※高専機構単独	E系 若松教授	年金納付する 第6年分

年金納付	特許登録第 5858274 号 結晶化促進方法、結晶化解析方法、結晶の製造方法、結晶化装置の制御プログラム、記録媒体、及び結晶化装置 ※高専機構単独	E 系 若松教授	年金納付する第 6 年分
年金納付	特許登録第 5847339 号 非接触交流電圧測定装置 ※企業との共同出願	E 系 皆藤准教授	年金納付する第 6 年分

②研究成果の外部公表

1) 学内からの発信

研究彙報（第 56 号）（L 部 加藤（彬）助教、M 系 平澤准教授、L 部 平本准教授、M 系 飛田教授投稿）を作成し、茨城高専ホームページに掲載して外部へ公表する。また、茨城高専シーズ集を改訂し、PDF 版を茨城高専ホームページに掲載している。

※茨城高専 HP 掲載場所 HOME/施設センター紹介/茨城高専地域共同テクノセンター

③校長裁量経費の活用

研究推進経費として 150,127 円を C 系 澤井助教に配分し、論文投稿支援事業として 135,000 円を M 系 平澤准教授に支援した。

④ひたちなか市との包括連携協定関係

1) なかネットワークシステム (NNS) 関係

7 月 31 日：通常総会（書面開催）

8 月 24 日～28 日：ジョブシャドウ型インターンシップ参加学生 5 名（M 系 4 年生 5 名）

受入企業 6 社（アポロアイシーティ（株）、（株）神原鉄工所、（株）関東技研（東海村）、（株）菊池精機（那珂市）、（株）ミトリカ（水戸市）、（株）ヨシダ（水戸市））受入企業を会員企業から調整して実施

11 月 21 日：コーディネーター養成講座修了式へ米倉校長出席

NNS 新年賀詞交歓会、NNS ひらめきサロン、公開講座は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から中止。

2) 市民大学の開講

電気回路（上級）をひたちなか市子育て支援・多世代交流施設「ふぁみりこらぼ」にて下記の日程で開講した。

回	開催日	講義内容	講師
1	10月28日	正弦波交流、正弦波交流の発生	澤島准教授
2	11月11日	コイルとインダクタンス コンデンサとキャパシタンス	澤島准教授
3	11月25日	瞬時値、フェーザ、複素数を用いた交流回路の計算	澤島准教授
4	12月9日	交流回路の電力、交流回路網の計算(1)	澤島准教授
5	12月23日	交流回路網の計算(2)	澤島准教授

3) 青少年のための科学の祭典ひたちなか大会

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から中止

4) 放課後子ども教室事業

放課後子ども教室事業としてひたちなか市と委託契約を締結。放課後に学校の理科室を利用し、茨城高専の教員（L部 久保木准教授、E系 服部助教、C系 小林准教授）と学生（D科5年生4名、C科5年生2名）が講師となつて、長堀小学校2年～6年生の児童32名を対象に理科の実験を中心とした体験活動を行い、児童たちの学習に対する意欲・関心を高める活動を下記の日程で行った。

回	開催日	内 容
1	9月30日	音で遊ぼう
2	10月14日	空気砲で遊ぼう
3	10月28日	電子で遊ぼう
4	11月11日	光で遊ぼう
5	11月25日	お化け手袋で遊ぼう
6	12月9日	色で遊ぼう
7	12月23日	星を見よう

5) 小学校プログラミング教育のコンテンツ開発

専攻科2年生が特別実験（プロジェクト実験）で小学校プログラミング教育のコンテンツ開発を行い、ひたちなか市の小中学校教員等を対象にプログラミング教育研修会を8月12日に本校6号館2階コンピュータ演習室で開催した。。

⑤ 大洗町教育委員会との連携

令和2年度より必修化された小学校プログラミング教育の教材を、大洗町教育委員会とともに開発し支援することを目的とした「小学校プログラミング教育教材製作プロジェクト」を実施。12月22日に大洗町立南小学校で、3月8日に大洗町立大洗小学校でM系 岡本教授が1年生の児童を対象に模擬授業を行った。

⑥科学研究費助成事業講習会の開催

9月15日に、科学研究費助成事業への応募の活性化及び採択件数の増加を目的とした令和2年度科学研究費助成事業応募講習会をMicrosoft Teamsにて開催した。長岡工業高等専門学校 研究推進担当 荒木教授が講師として講演し、事務担当者から翌年度の応募についての説明を行った。参加者：教員23人、事務職員2人・技術職員5人。

⑦研究推進委員会の開催

令和2年度は7回実施した。開催日時と議題は下記のとおり。

1) 第1回：令和2年7月20日（月）メール審議（7月28日（火）17時期限）

議題【審議事項】

1. 特許出願審査請求について（審議内容：審査請求の可・否）

2) 第2回：令和2年8月11日（火）メール審議（8月18日（火）17時期限）

議題【審議事項】

1. 特許料の納付について（審議内容：特許料納付の可・否）

2. 特許権の年金納付について：第7年度分（特許第5626914号：高専機構単独）

3. 特許権の年金納付について：第6年度分（特許第5821127号：高専機構単独）

4. 特許権の年金納付について：第6年度分（特許第5858274号：高専機構単独）

5. 特許権の年金納付について：第6年度分（特許第5847339号：イイダ電子(株)との共同）

3) 第3回：令和2年10月14日（水）メール審議（10月20日（火）17時期限）

議題【審議事項】

1. 知的財産権の機構承継について（審議内容：機構承継のための申請の可・否）

4) 第4回：令和2年12月11日（金）メール審議（12月18日（金）17時期限）

議題【審議事項】

1. 知的財産権の機構承継について（審議内容：機構承継のための申請の可・否）

5) 第5回：令和3年1月18日（月）メール審議（1月22日（金）17時期限）

議題【審議事項】

1. 令和2年度研究彙報第56号への研究論文の投稿募集について

2. 令和2年度論文投稿支援事業について

6) 第6回：令和3年2月10日（水）メール審議（2月17日（水）17時期限）

議題【審議事項】

1. 知的財産権の機構承継について（審議内容：権利化（機構承継）の可・否）

7) 第7回：令和3年3月29日（月）メール審議（3月31日（水）12時期限）

議題【審議事項】

1. 研究彙報56号（令和2年度）への投稿論文4本について

（審議内容：研究彙報への掲載または条件付き掲載の可・否）

2. 専攻科棟3階プロジェクト実験室2, 3の利用申請について

【研究協力・地域連携係関係】

①国内の大学等との連携協定に係る事業

1)筑波大学との連携協定に基づく活動

筑波大学との連携協定に基づき「グローバル工学基礎 (PBL 演習)」へ大学院留学生 (システム情報工学研究群 (科) 5人) をティーチングアシスタント (TA) として受け入れ、本校授業の教育指導等を行うことで交流を図った。

また、例年行っている茨城高専専攻科生のインターンシップについては、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から中止した。

②外部資金の受入

令和2年度外部資金受入一覧 (件数と受入金額)

資金種別	受入件数	受入金額 (円)	備考
共同研究	12 件	7,676,000 円	茨城高専に入金がないものは含まない。
受託研究	0 件	0 円	
受託事業	1 件	189,250 円	ひたちなか市放課後子ども教室
補助金	0 件	0 円	
研究助成金	4 件	2,370,000 円	
寄附金	15 件	10,313,635 円	教育研究基金 4 件を含む。
受託試験料	0 件	0 円	
技術相談料	0 件	0 円	
科研費	25 件	直接 40,550,000 円 間接 12,165,000 円	補助金 1 件、基金 22 件、分担金 2 件

③researchmap への登録

教員に対して researchmap への登録を依頼し全教員の登録を確認した。

(2) 自己評価 (改善含む) 及び課題

- ① 茨城高専ギャラリーは、新型コロナウイルス感染症の影響により 2 年連続で中止となった。令和 3 年度の開催にあたっては、実施に向け、内容や方法を検討する。
- ② ジョブセミナーは、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点からオンライン開催としたが、オンデマンドの利便性があり、今後もオンラインでの開催による利便性の向上と負担の軽減を検討する。
- ③ 今年度、ひたちなか市との連携事業として放課後子ども教室事業が実施され、ひたちな

か市や参加者から高評価をいただいている。来年度以降も継続していくことで、地元におけるプレゼンスの向上につなげていく。

- ④ 小学校プログラミング教育において、ひたちなか市及び大洗町と協力事業を行った。この取り組みについては高専機構も推進しており、今後、この事業を拡充していくための体制整備が必要である。

(3) 今後の展開

教育・研究は、それ自体が長期的観点からの社会貢献であるが、公開講座や産学官連携等を通じた、より直接的な貢献が求められており、こうした社会貢献について茨城高専が社会・地域に還元すること・できることを考え、地域の活性化に繋げていく。

昨今の社会や経済的環境の変化に対応するために、これからの高専には地域産業への貢献や地域創生の機能を取り込むことが期待されている。これまで果たしてきた人材育成中心の役割に加えて、地域産業や自治体との高度な連携が必要になる。ひたちなか市をはじめとする地元自治体や地元企業との連携を強化していくことによって、地域社会の SDGs に高専が貢献し、その活動を通して、高専学生の教育においても効果を上げていくことが期待できる。

1 3. 教育組織(教員任用審査会)

(1) 取組実績

① 採用

- ・ 令和3年4月1日付けで、後任補充として、一般教養部に助教2人(数学)、機械・制御系に助教1人を採用した。
- ・ 令和3年4月1日付けで、キャリア教育を専門に担当する者として、専門共通教育部に助教1人を採用した。

② 昇任

- ・ 系・部から推薦のあった候補者4人に対し審査を実施し、令和3年4月1日付けで教授2人、准教授2人の昇任人事を実施した。

③ 命免(職務附加)

- ・ 令和3年4月1日付けで、情報系教授1人を専門共通教育部勤務及び情報系担当とした。
- ・ 専門共通教育部勤務の教授1人を情報系担当とした。
- ・ 専門共通教育部勤務の教授1人を電気・電子系担当から化学・生物・環境系担当とした。
- ・ 令和3年4月1日付けで専門共通教育部に採用した助教1人を一般教養部担当とした。

④ 再雇用

- ・ 令和4年度再雇用を希望する教員1人に対し、所属系長から提出された再雇用計画の審査を行い、同人の再雇用を承認した。
- ・ 令和3年度に本校での再雇用を希望する他高専の教員1人に対し、複数の系・部での授業担当や高学年の物理の授業の担当可能性を考慮し、弾力的な人材活用が可能となるよう専門共通教育部への配置が検討され、専門共通教育部長が各系・部の意向を取りまとめながら再雇用計画が立案され、審査の結果、同人の再雇用を承認した。

⑤ 特命教員

- ・ 令和3年9月1日付けで、広報事業及び地域連携事業に携わる者として、地域共同テクノセンターに特命助教1人を採用した。
- ・ 令和2年12月1日付けで、学科等再編推進に係る者の後任補充として、化学・生物・環境系に特命准教授1人を採用した。
- ・ 令和2年12月16日付けで、グローバルエンジニア育成事業に携わる者の後任補充

として、専門共通教育部に特命助教1人を採用した。

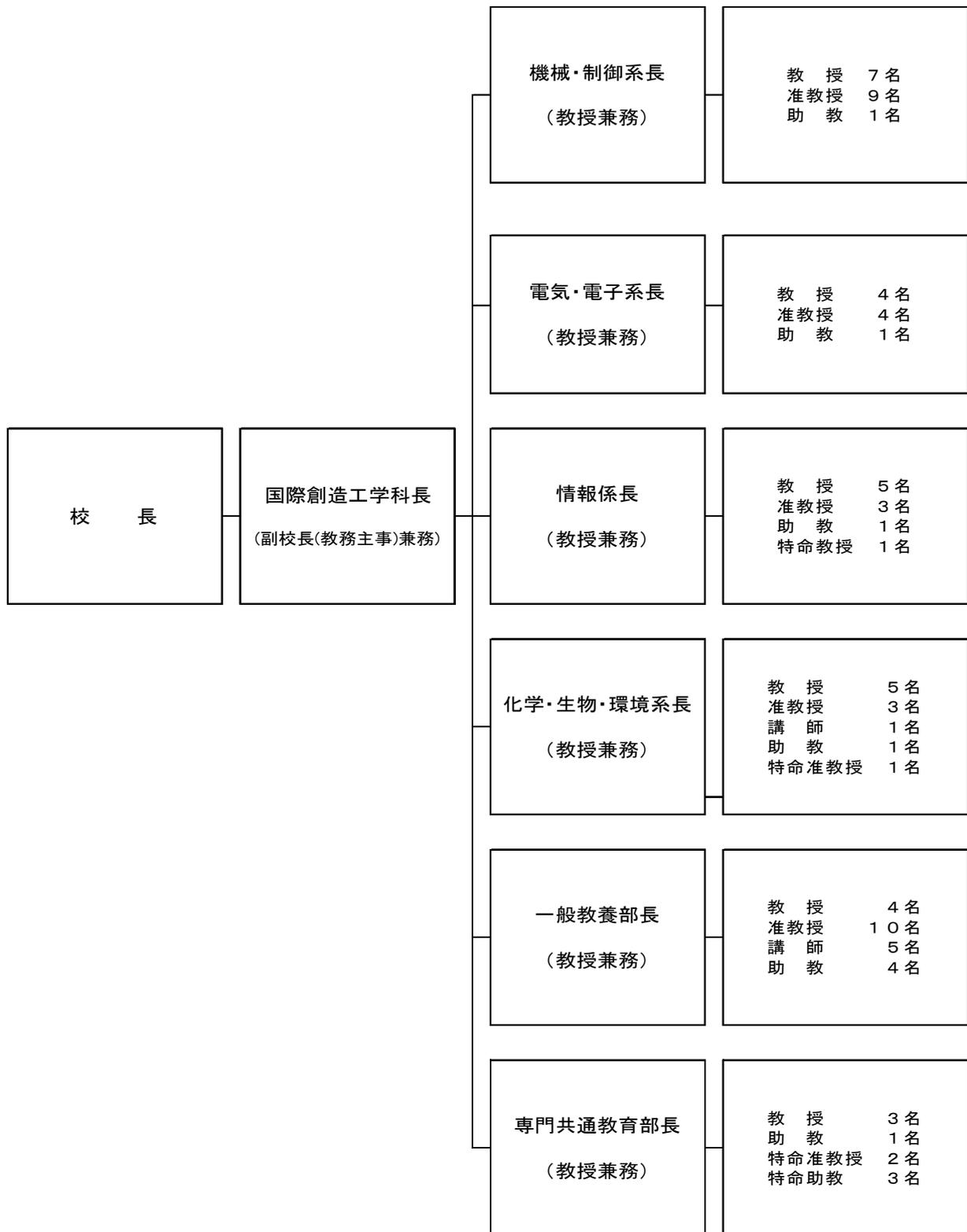
- 学科改組に伴い雇用された特命教員3人全員について契約更新を行うことが確認された。
- 各事業に対応するために雇用された特命教員8人全員について契約更新を行うことが確認された。
- 令和3年4月1日付けで、特命助教1人を地域共同テクノセンターから専門共通教育部勤務とした。

⑥ 非常勤講師

- 新型コロナウイルス感染症の影響により、前期日程が変更となったため、前期開講授業科目のみを担当していた非常勤講師4人について契約期間を延長した契約更新を行った。
- 令和2年10月1日付けで、後期開講授業科目を担当する非常勤講師1人を採用した。
- 各系等から推薦のあった令和3年度非常勤講師候補者について審査を行い、令和3年度は39人の非常勤講師について、契約更新又は採用することを承認した。

教育職員 配置図

令和3年4月1日現在



1 4. 教育支援組織(事務部)

(1) 取組実績

① 採用

- ・ 令和2年10月1日付けで、後任補充として、総務課施設管理係に係員1人を採用した。
- ・ 令和2年11月1日付けで、後任補充として、総務課財務係に係員1人を採用した。
- ・ 令和3年4月1日付けで、後任補充として、学生課寮務係に係員1人を採用した。

② 昇任

- ・ 令和2年10月1日付けで、総務課財務係財務主任を総務課用度係長に昇任させた。
- ・ 令和3年4月1日付けで、総務課施設管理係施設管理主任を総務課施設管理係長に昇任させた。

③ 配置換・課内異動

- ・ 令和2年8月1日付けで、総務課総務係員を総務課施設管理係に配置換した。
- ・ 令和2年10月1日付けで、以下のとおり実施した。
 - ・ 総務課研究協力・地域連携係長を学生課教務係長に配置換した。
 - ・ 学生課教務係長を総務課研究協力・地域連携係長に配置換した。
 - ・ 総務課総務係員を学生課学生支援係に配置換した。
 - ・ 学生課教務係員を総務課総務係に配置換した。
 - ・ 総務課用度係員を総務課財務係に課内異動させた。
 - ・ 学生課学生支援係員を学生課教務係に課内異動させた。
 - ・ 令和3年3月1日付けで、総務課研究協力・地域連携係員を総務課財務係に課内異動させた。

④ 兼務

- ・ 令和2年10月1日付けで、総務課課長補佐(財務担当)の総務課用度係長兼務を解除した。

⑤ 再雇用

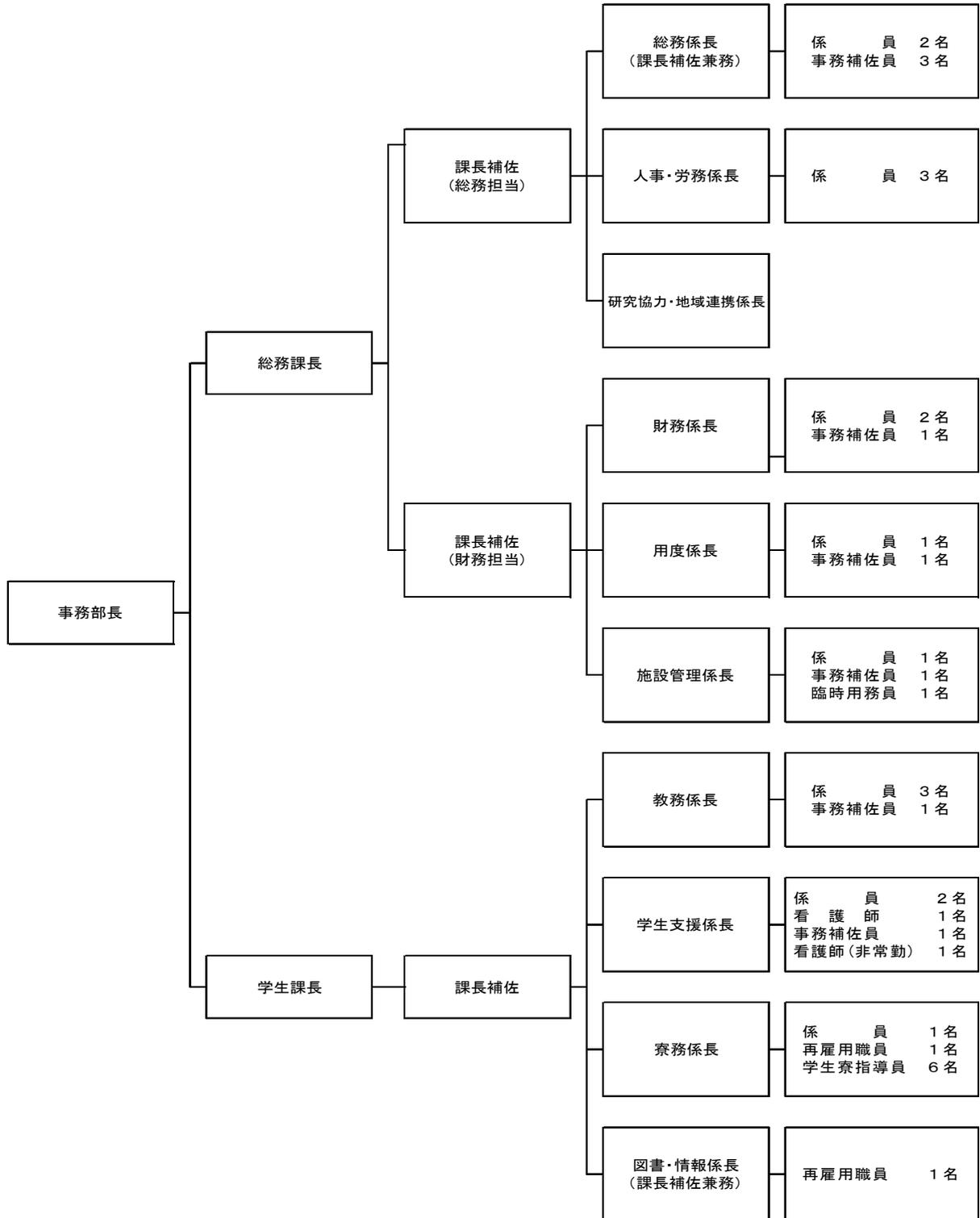
- ・ 令和3年4月1日付けで、学生課寮務係及び学生課図書・情報係の再雇用職員各1人の再雇用契約を更新した。

⑤ 非常勤

- ・ 令和2年7月1日付けで、後任補充として学生課教務係に事務補佐員1人を採用した。
- ・ 令和2年8月1日付けで、以下のとおり採用した。
 - ・ 総務課総務係にグローバルエンジニア育成事業を担当する事務補佐員1人を採用した。
 - ・ 学生課教務係に遠隔授業実施に対応するための事務補佐員1人を採用した。
- ・ 令和2年9月1日付けで、以下のとおり実施した。
 - ・ 総務課用度係事務補佐員を総務課施設管理係事務補佐員に課内異動させた。
 - ・ 上記後任補充のため、総務課用度係に事務補佐員1人を採用した。
- ・ 令和2年12月1日付けで、後任補充として学生寮指導員1人を採用した。
- ・ 令和3年4月1日付けで、以下のとおり実施した。
 - ・ 後任補充として産業医1人を採用した。
 - ・ 非常勤職員16人（事務補佐員6人、臨時用務員1人、カウンセラー2人、看護師1人、学生寮指導員6人）の契約を更新した。
 - ・ 事務補佐員2人が無期労働契約に転換した。

事務職員 配置図

令和3年4月1日現在



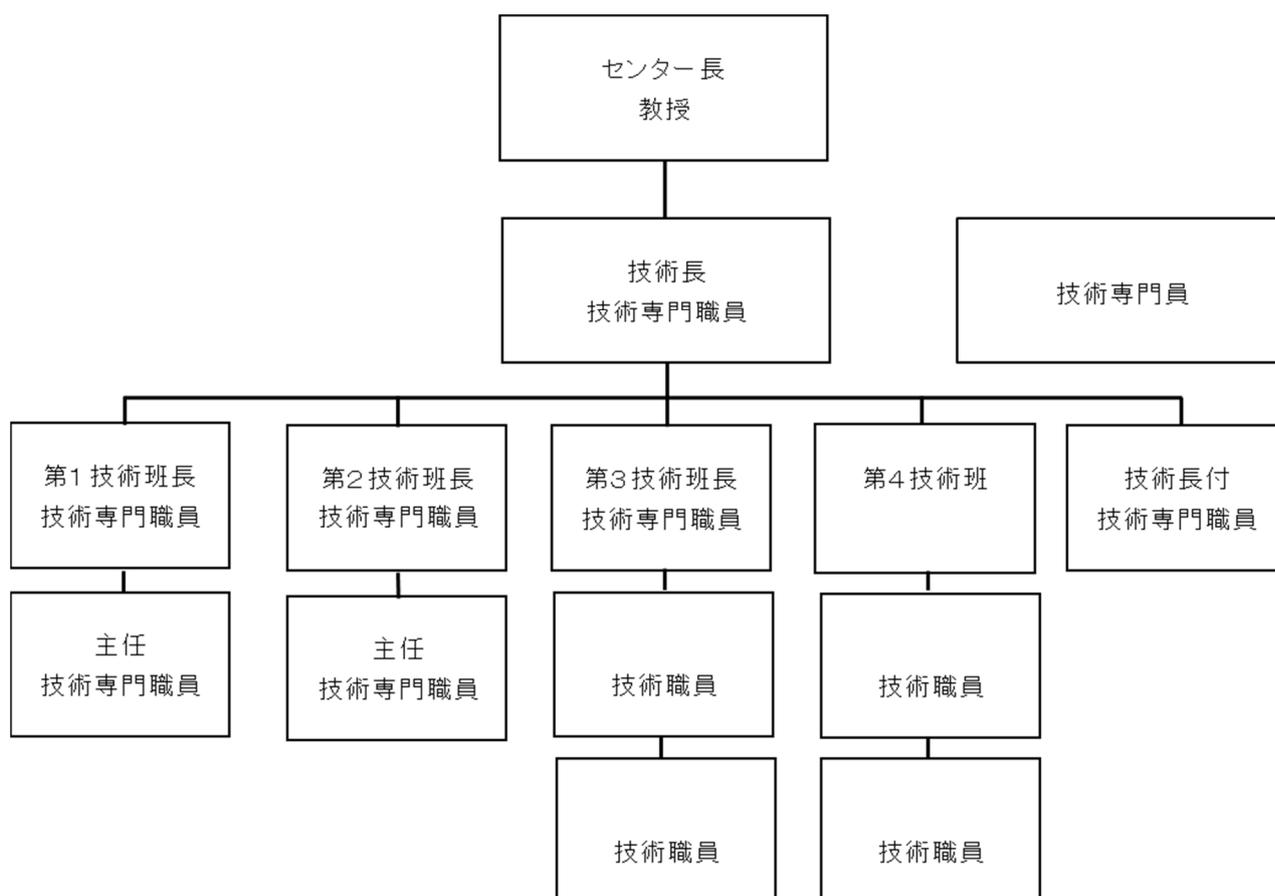
※育休中の者を含む。

15. 教育支援組織（技術教育支援センター）

（1）取組実績

技術教育支援センターは、本校の教育・研究支援に関する業務の円滑な運営及び管理運営等への技術支援体制の充実を図るとともに、本校技術職員の職務遂行に必要な能力及び資質の向上を図り、もって本校の教育・研究に資することを目的とする。

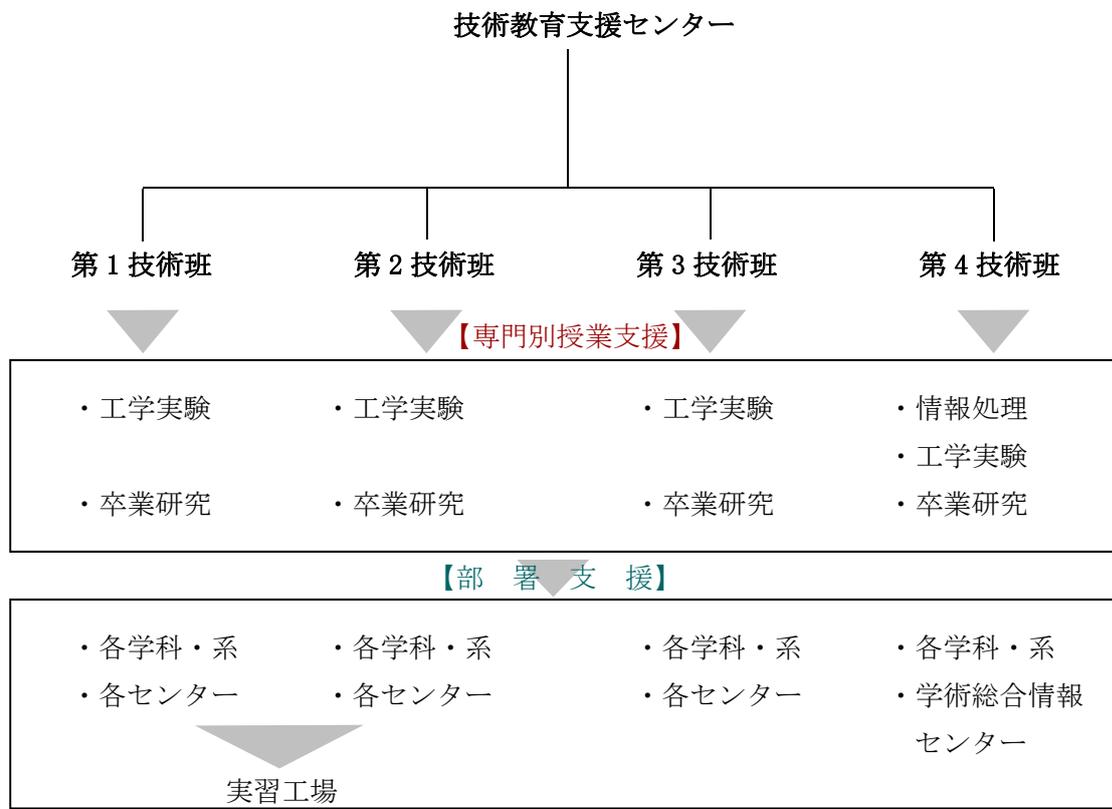
①組織



技術教育支援センター組織構成図（令和3年3月31日現在）

②職務内容

- 1) 技術教育支援センターとしての全般的業務
- 2) 各班の業務
 - イ. 担当と関連する業務の依頼、相談等の窓口
 - ロ. 研修会、公開講座等の企画、実施
- 3) 職務遂行部署（個人の活動部署）



③活動報告

1) 授業等への支援

支援業務の中核となる実験、実習、演習等への支援は、令和2年度始め前に各系、各部署から要請を受け、それらを調整し技術教育支援センター技術職員週間スケジュール表にまとめ原案作成を行った。その後運営会議の了承を得て支援業務を実施した。

2) 製作、作業支援

“ものづくり”の拠点となる実習工場への期待と需要は年々高まる傾向にあり、依頼製作における形状の複雑化が顕著となっている。卒業研究（本科）、特別研究（専攻科）及び教員研究に伴う製作支援など全系のみならず、エコランカー、レース用EVフレームの製作依頼等も増加の傾向にある。また、物質系分野では水質分析を行うなど多岐に渡り手がけた。

④講習会等の開催報告

本センターでは支援業務の一環として部活・同好会の学生を対象とした基本機械操作講習会を定期的で開催している。例年5～6月前後にロボット部と自動車部に在籍する学生を対象に開催しているが、令和2年度はコロナ情勢を鑑み開催見送りとした。

⑤研修会・講習会・学会等の参加報告

令和2年度中に種々の講習会が開催された。情報共有やスキル向上などを目的として本センター職員が参加したものを以下に記す。

名 称 : 2M実験手仕上げ研究授業

実施期間: 令和2年9月7日(月)

場 所 : 本校実習工場

被研修者: 樋田

協 力 者: 技術教育支援センター技術職員

講習内容: 1. やすりがけ作業

2. ケガキ作業

3. 穴あけ、ねじ切り作業

4. 仕上げ作業

名 称 : 令和2年度国立高等専門学校機構情報担当者研修会

主 催 : 独立行政法人国立高等専門学校機構 本部事務局情報企画課

日 程 : 令和3年2月8日(月) 9:30~12:00、13:30~16:30

場 所 : 【午前】本校中会議室、【午後】本校情報センター事務室

出席者 : 豊田、鈴木

実施方法: Microsoft Teams 会議での開催

⑥茨城高専おもしろ科学セミナー2020

⑦青少年のための科学の祭典ひたちなか大会2020

上記のおもしろ科学セミナーおよび科学の祭典について、例年出展していたが令和2年度は両イベントともに開催中止であったため、本年は出展を見送った。

⑧会議開催の記録

1) 令和2年度技術教育センター管理運営会議

令和2年度は情勢を鑑み対面会議ではなく、資料を作成しての回覧形式とした。以下に資料での報告事項を示す。

1. 令和元年度技術教育支援センター活動報告書

2. 令和2年度の活動について

(a) 令和2年度技術職員週間スケジュールについて

(b) 科学研究費への申請を予定

(c) 地域貢献活動

- ・おもしろ科学セミナー 8月21日(金)
- ・青少年のための科学の祭典 10月31日(土) 11月1日(日) どちらかに参加。

3. 令和2年度研修および会議

- (a) 令和2年度東日本地域高等専門学校技術職員特別研修会
長岡技術科学大学 8月26日(水)～28日(金)
- (b) 令和2年度関東信越地区国立工業高等専門学校技術長会議
茨城高専 8月21日(金)
- (c) 令和2年度関東信越地区国立高等専門学校技術職員研修会
群馬高専 9月を予定
- (d) 令和2年度北関東地区安全管理ワークショップ
宇都宮大学 9月頃を予定

4. 技術教育支援センターニュースの配信継続

2) 技術教育支援センター会議

令和2年度についてコロナの為、集合形式での会議は見送った。併せて必要に応じてメール配信による連絡を行った。

⑨技術教育支援センター 技術職員 保有資格状況

知識・技量の証明の一つの指標として積極的な取得を推進している。

* 複数資格取得者含む

令和3年3月31日 現在

分類	資格名	取得者数
職業訓練指導員	職業訓練指導員(機械)	4
	職業訓練指導員(電気)	2
	職業訓練指導員(化学分析)	1
技能士	特級機械加工技能士	1
	特級機械保全技能士	1
	1級機械加工技能士(普通旋盤作業)	2
	1級化学分析技能士	1
作業環境測定士	第1種作業環境測定士(鉱物性粉じん)	1
	第1種作業環境測定士(特定化学物質)	1
	第1種作業環境測定士(金属類)	1
	第1種作業環境測定士(有機溶剤)	1
衛生管理者	第1種衛生管理者	5

作業主任者	エックス線作業主任者	1
	特定化学物質等作業主任者	2
	鉛作業主任者	1
	有機溶剤作業主任者	1
特別教育 インストラクター	局所排気装置等定期自主検査 インストラクター	1
電気工事士	第2種電気工事士	2
電気通信設備工事担任者	アナログ第3種工事担任者	1
教員免許	中学校教諭免許状（理科）	1
	高等学校教諭免許状（理科）	1
	中学校教諭免許状（数学）	1
	高等学校教諭免許状（数学）	1
毒劇物取扱責任者	毒劇物取扱責任者	2
危険物取扱者	甲種危険物取扱者	1
	乙種第4類危険物取扱者	7
特別管理産業廃棄物 管理責任者	特別管理産業廃棄物管理責任者	1
技能講習	ガス溶接技能講習	3
	玉掛け技能講習	1
	フォークリフト運転技能講習	1
特別教育	アーク溶接特別教育	2
	自由研削砥石特別教育	5
	機械研削砥石特別教育	2
	プレス・シャー金型交換特別教育	2
	特定粉じん作業特別教育	5
	クレーン運転業務特別教育（5トン未満）	1
情報技術者	基本情報技術者	1
	第2種情報処理技術者	2
CAD利用技術者試験	HDBaseT インストーラーエキスパート	1
	2次元CAD利用技術者試験2級	1
ビジネス・キャリア検定	2級生産管理オペレーション （作業・工程・設備管理）	1

(2) 自己評価（改善含む）及び課題

①令和2年度はコロナ禍においてほとんど全てのイベント本校主催の（おもしろ科学セミナー）ひたちなか市主催の（科学の祭典）等が中止になった。

今年はコロナ禍の影響を受けながらイベントが出来るように準備したい。

②学生実験及び実習・演習等の授業の変則的なスケジュールに技術職員のコロナ禍の対応を臨機応変に組み立てていく。

(3) 今後の展開

①技術教育支援センターの長期ビジョンの策定

様々なニーズに即した技術教育支援を実現するための基盤を作る。その実現に向けて職員のスキル向上および最新の技術・教育の習得に努める。具体的には研修会や講習会、資格取得といった機会の積極的な活用を通して自身の技術と知識の向上を図ると共に、自身の見識を広げ種々の要望に対応可能なように努力する。更に実習工場の高機能化した設備・環境を活かし、支援能力の向上を図る。

②国立高専機構中期目標・計画及び年度計画ならびに茨城高専年度計画に沿った指針

技術職員の資質向上に向けて学会発表や研修会、他機関との交流に対する積極的な推進と科研費をはじめとした外部資金の獲得を目指す。加えて社会・機構のグローバル化に適した技術支援体制の構築を図る。

③多岐に渡る支援業務への対応

各々の技術を活かし、センターとして多岐多様な支援を円滑に行うよう努める。

④地域貢献と広報活動の活発化

高専の認知度向上の一環として小中学生向けイベントや公開講座といった地域貢献活動に取り組む。同時に技術教育支援センターニュース（年2回程度）やセンターのウェブサイトにおいてリアルタイムに内外へ発信する。

16. 予算及び施設・整備（総務委員会）

（1）取組実績

①財務状況（令和2年度）

収入額 (単位：千円)		支出額 (単位：千円)	
区 分	決算額	区 分	決算額
運営費交付金	123,397	人件費(非常勤教職員)	88,802
授業料・入学料及び 入学検定料	264,389	教育研究経費	252,592
その他収入	9,059	教育研究支援経費	26,662
施設整備費	569,553	一般管理経費	41,031
		施設整備費	569,553
合 計	966,398	合 計	978,640

※収入額と支出額の差額は外部資金間接経費の執行分。
科学研究費助成事業、受託・共同研究費、補助金を除く。

②予算

予算については、運営交付金算定ルールによる効率化の減額が続き厳しい状況の中、当初配分方針に基づき教育の質が落ちないように学科（各部・系）等への配分基準額は現状維持に努め当初配分を行った。当初配分では毎年減額が続いているものの決算時の予算執行残額調整の精度を上げ、機構本部からのインセンティブや計画的な採用抑制への取組み等を図ることで教育改革推進経費の増額に努め追加配分（29,826千円）を獲得することが出来た。

また、11月末日で予算執行を締め切り、残予算を有効活用するために集約し一般教養部・各系等への機器等更新（13,326千円）を行い、教育研究活動及び施設維持管理に対応した整備（23,569千円）を実施することで、予算の有効活用を推進した。

さらに、期末執行集中防止と効果的な活用を促進するため昨年度予算実績の50%を4月に配分し、校長のリーダーシップの下、戦略的かつ計画的な学校運営を行うことが出来た。

②施設・整備

施設整備については、機構本部から施設維持管理として教育等施設基盤経費等が予算配分され45,658千円を施設維持管理費の施設関係に配分することで安心・安全な教育研究環境の基盤整備に努めた。

また、施設整備費補助事業として図書館改修、ライフライン再生（給排水設備・電気設

備・ガス設備) 工事及び構内情報通信網更新工事を実施した。そのほか、今年度工事を行っている国際寮新営、実習工場改修及び営繕工事については、次年度完成に向けた整備を計画的に行っていく。

整備計画としては、キャンパスマスタープラン 2018 に基づき、老朽化の著しい施設の改修、学習環境整備及び緑地管理を実施したほか、新型コロナウイルス感染症の防止に向けて保健施設の改修や衛生環境の改善を実施した。

(2) 自己評価(改善含む)及び課題

① 予算

毎年当初配分の減額が続く中、教育の質を維持するため茨城高専では集約予算を有効活用し学生の実験実習の経費に追加配分することで、平成 16 年度並みの学科(各部・系)等教育研究経費を維持している。集約予算については、その殆どが追加配分の教育改革推進経費で占めている為、機構本部で考えている教育改革推進経費の加減額が影響されている。今後は文部科学省や高専機構の新しい政策に取組み、地域や社会の要請を敏感にとらえ、産学連携による機能強化を図ることで財源の確保が必要となる。

また、経常経費の圧縮が喫緊の課題となり、特に委員会等経費については、前年度を踏襲した予算要求が数多く見られることから、必要性・緊急性並びに教育効果等を十分検討した上で、学校全体の為に有効活用するよう意識改革させることが今後の課題である。

② 施設・整備

キャンパスマスタープラン 2018 の各プランに基づき、教育研究環境の改善及びキャンパス整備を上記取組実績のとおり計画的に実施した。

なお、老朽化した既存設備については、多様な財源の活用も視野に入れ計画的に整備を行う必要があり、適切な維持管理を行い、設備の長寿命化を図る必要がある。

また、高専機構施設整備 5 か年計画 2021 が策定され、本校キャンパスマスタープランを含む施設整備計画の見直しを行う必要があり、今後は、施設整備の充実に取り組みを行い、質の高い安全な教育研究環境の確保とともに、教育の高度化・国際化に対応した施設整備を進める必要がある。

(3) 今後の展開

本校が質の高い実践的・創造的技術者育成教育を行うことができるよう、基盤的な環境の整備を図る上で、今後において財務レポートを作成し少しでも財源の確保に努めていき、無駄な予算執行を極力抑えていけるように教職員一体となって意識改革を行っていく必要がある。

17. 安全衛生管理（安全衛生委員会）

（1）取組実績

安全衛生委員会では、年間安全衛生推進計画を策定し、同計画に基づき実施及び実施状況の確認を行っている。

以下は、同計画の実施項目に沿った実績報告である。

①安全衛生管理

1) 安全衛生委員会の開催

法令に基づき、毎月1回安全衛生委員会を開催した。

2) 職場巡視の実施

法令に基づき、衛生管理者及び産業医による職場巡視を実施し、4S（整理・整頓・清掃・清潔）を推進した。

指摘があった事項については、安全衛生委員会へ報告の上、是正措置を講じた。

3) 4S（整理・整頓・清掃・清潔）推進に伴う赤札作戦の実施について

12月～1月にかけて赤札作戦を実施し、不要物品の洗い出し及び廃棄を実施した。

②安全衛生啓発活動及び訓練

1) 各種行事等の周知

全国安全週間、全国労働衛生週間、年末年始無災害運動、全国交通安全運動の各行事について学内周知を行い、教職員への啓発を実施した。

2) 自衛消防訓練、初期消火訓練の実施について

10月に全学生、全教職員を対象として自衛消防訓練、初期消火訓練を実施した。

3) 学寮避難訓練の実施について

4月及び10月に学生寮における避難訓練を実施した。

③心と体の健康づくり

1) 健康診断の実施

法令に基づき、定期健康診断、特殊健康診断、特殊歯科検診等の各種健康診断を実施し、受診可能な者（人間ドック受診により定期健康診断受診に替える者を含む。）は全員が受診した。

また、産業医が健康診断結果を確認し、必要と認める者に対しては健康指導等を実施した。

2) ストレスチェックの実施

法令に基づき、ストレスチェックを実施した。

高ストレス者については、希望者を対象として産業医による面接指導を実施した。

3) 感染症予防事業の実施について

インフルエンザ予防接種又はマスク・ウェットティッシュ・消毒液の配付いずれかを選択する感染症対策事業を実施した。

④安全衛生教育

1) 「学校安全の心得」の配付

例年、グループウェア・サイボウズにより電子版を掲載し、教職員が閲覧可能な状態にしている。

2) 「実験実習安全必携」の配付

Google ドライブを活用し、全学生に対し電子データによる配付を行った。

⑤機械、薬品等の定期点検による安全確保

1) 機械の特定自主検査等の実施

対象機械について、特定自主検査を実施した。

2) エックス線発生装置の点検実施

エックス線発生装置の点検を実施し、異常がないことを確認した。

3) 薬品使用状況及び廃液の点検

薬品管理システムにより薬品管理を実施するとともに、実験等による薬品廃液については、回業者へ委託し廃棄処理をした。

4) 作業環境測定及び大気環境中のアスベスト濃度測定の実施

9月及び3月に、本校の作業環境測定士を中心として上記測定を実施した。

5) 局所排気装置の点検

法令に基づき、局所排気装置の点検を実施した。

⑥その他

1) 組換えDNA実験実施計画の承認

組換えDNA実験安全専門部会から、新規組換えDNA実験実施計画（全件機関届出実験）について報告を受けた。

2) 健康情報等の取扱規程の制定について

労働安全衛生法の改正により、策定が義務づけられていた健康情報等の取扱規程を制定した。

(2) 自己評価（改善含む）及び課題

- ① 人間ドック受診により定期健康診断受診に替える者を含め、該当者全員が定期健康診断を受診できており、引き続きこの状況を維持できるようにする。

- ② 衛生管理者能力向上教育への衛生管理者派遣については、最新情報の取得や最近の動向把握にも役立つため、新型コロナウイルス感染症の影響もあり今年度は見送ったが継続実施が有効である。
- ③ 新型コロナウイルス感染症の影響により、今年度も実施に至らなかったが、普通救命講習会の実施が滞っているため、定期的に実施できるようにしていく必要がある。

(3) 今後の課題

- ① 学科改組により教員組織の構成員及び教員室の場所が変更となる可能性があったため、対応を見送っていた①「学校安全の心得」の改定作業、②実験室使用者及び薬品使用状況調査を実施する必要がある。
- ② スケジュール調整が困難であるが、普通救命講習会を年2回程度実施し、教職員の救急救命措置能力の向上を図る必要がある。
- ③ 作業環境測定士等の有資格者を複数人確保し、当該有資格者の業務負担軽減及び当該有資格者が対応困難な際の相互補完が可能な体制を構築する。

18. 自己点検・評価（自己点検・評価委員会）

（1）取組実績

自己点検・評価については、各事項を所掌する委員会等で行うこととなっており、それを総合して点検・評価する組織として自己点検・評価委員会を設置している。

当委員会では、主に教育点検・評価システムの検討及び改善、外部評価の受審、年度計画実績の評価等を行っており、今年度は次の活動を行った。

①授業評価アンケートの実施

前期開講科目は前期期末試験終了後に、後期開講科目及び通年開講科目について後期末試験終了後に授業評価アンケートを実施した。アンケートは、原則全科目・全教科を対象として実施した。

個人の評価については、各学科長等及び各個人にフィードバックし、全体の集計結果については、学生には掲示で公表した。

②学習指導法等の工夫・改善事例報告書の作成

前年度の授業評価アンケートで基準点を超えた教員から、授業での取り組みを記載した学習指導法等の工夫・改善事例報告書を提出してもらい、グループウェアに公表した。

③成績評価に用いる答案等の保存のデータ化

昨年度までは、成績評価に用いる答案等を紙ベースで保存していたが、今年度からファイルサーバに保管場所を構築し、データで保存することとした。

④参与会の開催

本校以外の有識者に、教育研究活動等の状況についての評価及び助言等の提言をいただき、改善を行うことを目的とした参与会を次のとおり開催した。

- ・ 開催日：令和3年3月10日（水）
- ・ テーマ：「コロナ禍での遠隔授業の導入について」
「コロナ禍における産学官連携について」

⑤FD研修会の開催

教員の教育改善・能力の向上を目的としてFD研修会を次のとおり開催した。

第1回

- ・ 開催日：令和2年4月8日（水）
- ・ 題目：学生が在宅のまま受講する（遠隔授業）するための、実現可能な方法及び遠隔授業に求められる内容について事例紹介

- ・ 講師：本校教員 准教授 井坂 友紀 氏
本校教員 准教授 小沼 弘幸 氏
本校教員 助教 澤畑 博人 氏

第2回

- ・ 開催日：令和2年10月29日（木）
- ・ 題目：学業成績処理の効率化について
- ・ 講師：スキヤネット株式会社 浦谷 幸平 氏
本校教員 准教授 長谷川 勇治 氏

⑥自己点検・評価委員会の開催

第1回

開催日：令和2年8月19日（水）

- 議 題：1. 自己点検・評価委員会の業務について
2. 令和2年度前期分授業評価アンケート
3. 令和2年度教員表彰の推薦者について
4. 今後の答案等の保管方法について
5. 令和元年度年次報告書
6. 令和2年度参与会参与

第2回

開催日：令和2年12月7日（木）

- 議 題：1. 令和2年度後期授業評価アンケートの実施について
2. 令和2年度担任評価アンケートについて
3. 令和2年度参与会の開催について

⑦教育改善計画会議の開催

「教員相互による定期試験問題等のチェックに関する申合せ」に基づき、教育の改善内容について協議する、教育改善計画会議を次のとおり開催した。

開催日：令和3年3月11日（木）

議 題：定期試験問題及び授業改善計画書に基づく協議

(2) 自己評価（改善含む）及び課題

- ① 授業評価アンケートは、全教員へフィードバックし教育改善の一助となった。
- ② 成績評価に用いる答案等の保存を紙ベースからデータでの保存に変更したことにより、経費節減及び業務の効率化を図ることが出来た。
- ③ 参与会は、今年度の重要課題となった「コロナ禍での遠隔授業の導入及び産学連携」のテーマで開催し、各参与から本校の取り組みは概ね適切との評価をいただいた。

助言のあった事項については、今後、改善に努めていく。

- ④ FD研修会は2回開催し教育改善の一助としたが、特に新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、全学的に遠隔授業を導入する際に実施した「遠隔授業の導入遠隔授業の実施方法等の事例紹介」については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、期間内ない中での遠隔授業の実施への大きな手助けとなった。

(3) 今後の展開

現在、「教員相互による定期試験問題等のチェックに関する申合せ」等により教育の改善を行っているが、学生の学業不振者等の原因は多様化しているため、他の委員会等とも連携の上、教育改善の仕組みを見直ししていく予定である。